

ルカの福音書（医者ルカの記録）

快復の見込みのない病気で絶望している人。 社会的地位も低く、人からいやしめられ、軽べつされている人。 人々に訴える力も、権力もない弱い女たち。 社会の片隅に追いやられ、存在すらも認められない、そのような人たちの心を、イエスは大切になさいました。 そして、つらい思いでいる人々の気持ちを理解し、やさしい励ましと、慰めのことばを一人一人にかけていかれたのです。 そういうキリストの姿が、医者ルカの目を通して生き生きと描かれています。

—

神様を愛する親愛なる友へ。

1 2 イエス・キリストの伝記は、最初からの目撃者であり弟子であった人たちの証言をもとに、すでに幾つかでき上がっています。 3 しかし私は、すべての記録を、もう一度初めからチェックし、徹底的に調査した上で、あなたのために順序正しく書いて差し上げたいと思うようになりました。 4 それによって、教わっていたことはみな正確な事実であることが、よくわかりいただけたと思います。

ザカリヤへの約束

5 私の話は、ヘロデがユダヤの王であった時代にユダヤの祭司をしていた、ザカリヤという人のことから始まります。 ザカリヤは、神殿で奉仕するアビヤの組の一員で、妻エリサベツも祭司の家系でアロンの子孫でした。 6 この夫婦は神様を愛し、おきてを忠実に守り、心から従っていました。 7 しかし、エリサベツは子供のできない体だったので、夫婦には子供がなく、二人ともすっかり年をとっていました。

8 さて、ザカリヤの組が週の当番となり、彼は神殿で祭司の務めをしていましたが、 9 祭司職の習慣に従ってくじを引いたところ、聖所に入って主の前に香をたくという光栄ある務めが当たりました。 10 香がたかれている間、民衆は神殿の庭で祈るのです。 大ぜいの人が集まっていました。

11 ザカリヤが聖所で香をたいていると、突然、御使いが現われ、香をたく壇の右側に立ったではありませんか。 12 ザカリヤはびっくりし、言い知れぬ恐怖に襲われました。

13 しかし、御使いは言いました。「ザカリヤよ。 こわがることはありません。 うれしい知らせなのだから。 神様があなたの祈りをかなえてくださったのです。 エリサベツは男の子を産むでしょう。 その子にヨハネという名前をつけなさい。 14 その子はあなたがたの喜びとなり、楽しみとなります。 また多くの人もあなたがたと共に喜びます。 15 その子が、主の前に偉大な者となるからです。 彼はぶどう酒や強い酒は絶対に飲みません。 生まれる前から聖霊様に満たされており、 16 やがて、多くのユダヤ人を神様に立ち返らせるのです。 17 昔の預言者エリヤのように、たくましい霊と力にあふれて、メシヤ（救い主）の前ぶれをし、人々にメシヤを迎える準備をさせます。 大人には子供のような素直な心と呼び覚まし、逆らう者には信仰心を起こさせるのです。」

18 「そんなことは信じられません。 私はもう老いぼれですし、妻もすっかり年をとっているんです。」

19 「私はガブリエル、神様の前に立つ者です。 神おん自らが、すばらしい知らせを伝えるために、私を遣わされたのです。 20 この知らせを、あなたは信じませんでした。その罰に、あなたは神様に打たれて口がきけなくなります。 子供が生まれるまで話すことはできません。 その時が来れば、必ず私の言ったとおりになるのです。」

21 外の人たちは、ザカリヤが出て来るのを、今や遅しと待ちかまえていましたが、なぜそんなに手間どっているのか不思議でなりません。 22 ついに出て来ました。 ところが、何も言わないのです。 しかし、ザカリヤの身ぶりから、きっと神殿の中で幻を見たのだらうと考えました。 23 ザカリヤは残りの期間の奉仕をすませ、家に帰りました。

24 まもなく、エリサベツは妊娠し、五か月間、家に引きこもっていました。

25 エリサベツは、「主は、私に子供を与えて、恥を取り除いてくださった。 なんとあわれみ深いお方でしょう」と言いました。

マリヤへの約束

26 その翌月、神は御使いガブリエルを、ガリラヤのナザレ村に住む、マリヤという処女のところへお遣わしになりました。 27 この娘は、ダビデ王の子孫にあたるヨセフという人の婚約者でした。

28 ガブリエルはマリヤに声をかけました。 「おめでとう、恵まれた女よ。 主が共におられます。」

29 これを聞いたマリヤは、すっかり戸惑い、このあいさつはどういう意味だろうと考え込んでしまいました。

30 すると御使いが言いました。 「こわがらなくてもいいのです、マリヤ。 神様があなたに、すばらしいことをしてくださるのです。 31 あなたはすぐにみごもり、男の子を産みます。 その子を『イエス』と名づけなさい。 32 彼は非常に偉大な人になり、神の子と呼ばれます。 神である主は、その子に先祖ダビデの王座をお与えになります。

33 彼は永遠にイスラエルを治め、その国はいつまでも続くのです。」

34 「どうして子供ができましょう。 まだ結婚もしていませんのに。」

35 「聖霊様があなたに下り、神様の力があなたをおおうのです。 ですから、生まれてくる子供は聖なる者、神の子と呼ばれます。 36 ちょうど半年前、あなたのいとこのエリサベツも、『子供のできない女』と言われていたのに、あの年になってみごもりました。

37 神様の約束は、必ずそのとおりになるのです。」

38 「私は主の召使にすぎません。 何もかも主のお言いつけどおりにいたします。 どうぞ、いま言われたとおりになりますように。」マリヤがこう言うと、御使いは見えなくなりました。

39 40 数日後、マリヤはユダヤの山地へ急ぎました。 そして、ザカリヤの住む町へ行き、エリサベツを訪ねました。

4 1 マリヤのあいさつを聞くと、エリサベツの子供は、お腹の中で跳びはね、エリサベツは聖霊に満たされました。

4 2 エリサベツは喜びを抑えきれず、大声でマリヤに言いました。「あなたほど素晴らしい恵みを受けた女はいないわ。 お子さんが、神様の最も大きな誉れを表わすようになるんですもの。 4 3 主のお母様がわざわざおいでくださるなんて、身に余る光栄だわ。 4 4 あなたが入って来てあいさつなさった時、子供がお腹の中で喜び踊りましたの。 4 5 神様が語られたことは必ずそのとおりにになると信じたので、神様はあなたに、こんなすばらしいことをしてくださったのね。」

4 6 マリヤは答えました。

「ああ、私は心から主を賛美いたします。

4 7 救い主である神様を、心から喜びます。

4 8 神様は取るに足りない召使のような私さえ、
お心にとめてくださいました。

これから永遠に、どの時代の人々も、
私を、神様に祝福された者と呼ぶでしょう。

4 9 力ある聖なる方が、私に大きなことをしてくださったからです。

5 0 そのあわれみは、いつまでも、神様を恐れかしこむ者の上にとどまります。

5 1 その御手はどんなに力強いことでしょう！
主は心の高ぶった者を追い散らし、

5 2 権力をふるう者を王座から引きずり降ろし、
身分の低い者を高く引き上げ、

5 3 飢え渴いた者を満ち足らせ、
金持ちを手ぶらで追い返されました。

5 4 主は約束を忘れず、
しもベイスラエルをお助けになりました。

5 5 先祖アブラハムとその子孫を、永遠にあわれむと約束されたとおりに。」

5 6 マリヤは、エリサベツの家に三か月ほどいてから、家に帰りました。

バプテスマのヨハネの誕生

5 7 さて、エリサベツの待ちに待った日が来て、男の子が生まれました。 5 8 このニュースはたちまち近所の人や親類の間に伝わり、人々は、神がエリサベツをあわれんでくださったことを、心から喜び合いました。

5 9 子供が生まれて八日目に、友人や親類の人が集まりました。 その子に割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を行なうためです。 だれもが、子供の名前は父親の名を継いで、「ザカリヤ」になるものとばかり思っていました。

6 0 ところがエリサベツは、「いいえ、この子にはヨハネという名をつけますの」と言うではありませんか。

6 1 「なんだって！ 親族にそんな名前の者は一人もないじゃないか。」 6 2 あっけにとられた人々は、父親のザカリヤに、身ぶりで尋ねました。

6 3 ザカリヤは、紙をくれと合図し、それに「この子の名はヨハネ」と書いたので、一同はびっくりしてしまいました。 6 4 とたんに、ザカリヤの口が開きました。 また話せるようになったのです。 彼は神を賛美し始めました。

6 5 これには近所の人たちも驚き、このニュースはユダヤの山地一帯に広まりました。

6 6 だれもがその出来事を心にとめ、「この子はいったい、将来どんな人物になるんだろう。うーん、確かにこの子には、主の守りと助けがあるぞ」とうわさし合いました。

6 7 さて、父親のザカリヤは聖霊に満たされ、こう預言しました。

6 8 「イスラエルの神、主をほめたたえよう。

主は来て、ご自分の民を解放し、

6 9 そのしもベダビデ王の血筋から、力ある救い主を遣わされた。

7 0 ずっと昔から、聖なる預言者を通して約束されたとおりに。

7 1 救い主は、私たちを憎むすべての敵から救い出してくださる。

7 2 7 3 主は私たちの先祖をあわれみ、

特にアブラハムをあわれみ、

彼と結んだ聖なる契約を果たされた。

7 4 私たちを敵の手から解放し、

恐れず主に仕える者としてくださった。

7 5 私たちはきよい者、

神様の前に立つにふさわしい者とされた。

7 6 幼い息子よ。

おまえは栄光ある神の預言者と呼ばれよう。

おまえがメシヤ（救い主）のために道を備え、

7 7 主の民に、罪が赦され、

救われる道を教えるからだ。

7 8 これはみな、ただ神の深いあわれみによることだ。

天の夜明けがいま訪れようとしている。

7 9 その光は、暗黒と死の陰にうずくまる者たちを照らし、私たちを平和の道へと導くのだ。」

8 0 ヨハネは心から神を愛し、やがて成長すると、イスラエルの人々の前で公に語り始めるまで、たった一人、寂しい荒野に住んでいました。

二

イエスの誕生

1 そのころ、皇帝アウグストが全ローマ帝国の住民登録をせよと命じました。 2 これは、クレニオがシリアの総督だった時に行なわれた、最初の住民登録でした。

3 登録のため、国中の人がそれぞれ先祖の故郷へ帰りました。 4 ヨセフは王家の血筋だったので、ガリラヤ地方のナザレから、ダビデ王の出身地ユダヤのベツレヘムまで行かなければなりません。 5 婚約者のマリヤも連れて行きましたが、この時にはもう、マリヤのお腹は目立つほどになっていました。

6 ベツレヘムにいる間に、 7 マリヤは初めての子を産みました。男の子でした。 彼女はその子を布でくるみ、飼葉おけに寝かせました。 宿屋が満員で、泊めてもらえなかったからです。

8 その夜、町はずれの野原では、羊飼いが数人、羊の番をしていました。 9 そこへ突然、御使いが現われ、主の栄光がさっとあたり一面を照らしたのです。 これを見た羊飼いたちは恐ろしさのあまり震え上がりました。

10 御使いが言いました。 「こわがることはありません。 これまで聞いたこともない、すばらしい出来事を知らせてあげましょう。 すべての人への、うれしい知らせです。

11 今夜ダビデの町（ベツレヘム）で救い主がお生まれになりました。 この方こそ主キリストです。 12 布にくるまれ、飼葉おけに寝かされている赤ん坊、それが、目じるしです。」

13 するとたちまち、天の軍勢が現われ、御使いといっしょに神をほめたたえました。

14 「天では、神様に栄光があるように。

地上では、

平和が、神様に喜ばれる人々にあるように。」

15 御使いの大軍が天に帰ると、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こうぜ。 主が知らせてくださった、すばらしい出来事を見てこようじゃないか！」と言い合いました。

16 羊飼いたちは息せき切って町まで駆けて行き、ようやくヨセフとマリヤとを捜しあてました。 飼葉おけには、赤ん坊が寝ています。 17 何もかも御使いの言ったとおりです。 羊飼いたちはこのことを大ぜいの人に話して聞かせました。 18 それを聞いた人々はみな、ひどく驚きましたが、 19 マリヤはこれらのことを胸に納め、時々、思い返していました。

20 羊飼いたちは、お告げどおり赤ん坊にお会いできたので、神を賛美しながら、帰って行きました。

21 八日たち、割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を行なう日になりました。 その子は、母の胎内に宿る前から御使いに示されたとおりに、「イエス」と名づけられました。

22 モーセの法律によるきよめ（母親のきよめと幼子の献児）の時が来ると、両親はイエスを主にささげるため、エルサレムに連れて来ました。 23 モーセの法律には、「女から最初に生まれる子が男であれば、その子を主にささげなければならない」とあったのです。

24 両親は、決まりどおり、「山鳩一つがい、または家鳩のひな二羽」をきよめの供え物としてささげました。 25 その日、神殿には、エルサレムに住むシメオンという人がい

ました。正しい、信仰のあつい人で、聖霊に満たされ、メシヤ（救い主）のおいでをひたすら待ち望んでいました。 26 主が遣わされるその方を見るまでは絶対に死なない、という聖霊のお告げを受けていたのです。 27 その日は、聖霊に導かれて神殿に来ました。そして、マリヤとヨセフが、決まりどおり、イエスを主にささげるためにやって来るのに出会ったのです。 28 シメオンはイエスを抱き上げ、神を賛美しました。

29 「主よ。今こそ私は安心して死ねます。

30 お約束どおり、この目でメシヤを見、

31 あなたが遣わされた救い主にお会いしたのですから。

32 この方はすべての国を照らす光、

あなたの民イスラエルの光栄です。」

33 ヨセフとマリヤはそこに立ったまま、驚いてシメオンの言うことを聞いていました。

34 35 シメオンは両親を祝福してから、マリヤに言いました。「剣があなたの胸を刺し通すでしょう。イスラエルの多くの人がこの子を信じようとしないで、滅びるからです。しかし、この子によって大きな喜びを受ける人も大ぜいいます。こうして、多くの人の隠れた思いが現わされるのです。」

36 37 その日、女預言者アンナも神殿にいました。彼女はアセル族のパヌエルの娘で、たいへんな年寄りでした。七年の結婚生活の後、未亡人で通し、もう八十四歳にもなっていたのです。彼女は神殿を一步も離れず、祈りと断食に明け暮れ、神に仕える毎日を送っていました。

38 そこにいたアンナも神に感謝をささげ、救い主のおいでを待ちわびていたエルサレムのすべての人に、メシヤがおいでになったと語り聞かせました。

少年イエス

39 モーセの法律どおりにすべてのことをすませると、ヨセフとマリヤはガリラヤのナザレに帰りました。 40 イエスは成長してたくましくなり、年に似合わず賢い子だ、と評判になるほどでした。神も絶えずイエスを祝福してくださいました。

41 さて、両親は過越の祭りには、毎年かささずエルサレムに行きました。 42 十二歳の時、イエスは祭りの習慣どおり、両親についてエルサレムに行きました。 43 祭りが終わると、両親は帰途に着きましたが、イエスはそのまま、エルサレムに残りました。そうとは知らない両親は、 44 てっきりほかの人たちといっしょだろうと考え、たいして気にもとめず、その日一日、旅を続けました。ところが、夕方になってもイエスの姿は見あたりません。あわてて、親族や友人たちの間を捜し始めました。 45 それでも、やっぱり見つかりません。とうとう捜しながらエルサレムまで引き返しました。

46 三日後、ようやく、イエスの居場所がわかりました。なんと、神殿で法律の教師たちを相手に、むずかしい議論をしていたのです。 47 取り巻く見物人はみな、イエスの知恵と答えとに舌を巻いていました。

48 両親は、わが子が落ち着きはらって座っているのを見て、面食らってしまいました。

「どうして、こんなことをしてくれたんですっ！ お父さんもお母さんも、どんなに心配して捜し回ったか知れないんですよ」と、マリヤが言いました。

49 ところがイエスは、「なぜ捜したの。 ぼくがお父さんの家〔神殿〕にいるって、わからなかったのかなあ」とお答えになりました。 50 こう言われても、どういうことか、両親にはさっぱりわかりませんでした。

51 それからイエスは、両親といっしょにナザレにお帰りになり、彼らによくお仕えになりました。 マリヤは、このことをみな、心にとめておきました。 52 イエスは身長も伸び、知恵も加わって、神にも人にも愛されました。

三

ヨハネ、活動を始める

12 ローマ皇帝テベリオの治世の十五年目に、神は、荒野に住むザカリヤの子ヨハネにお語りになりました。〔当時、ポンテオ・ピラトが全ユダヤの総督で、ヘロデはガリラヤ、その兄弟ピリポがイツリヤとテラコニテ、ルサニヤがアビレネを治めていました。 大祭司はアンナスとカヤパでした。〕

3 ヨハネはヨルダン川周辺をくまなく歩き、罪が赦されるために、今までの生活を悔い改めて、神に立ち返ったことを表明するバプテスマ（洗礼）を受けるようにと、教えを説き始めました。

4 預言者イザヤの書にあるとおりです。

「荒野から叫ぶ声が聞こえる。

『主の道を準備せよ。

主が通られる道をまっすぐにせよ。

5 山はけずられ、

谷は埋められ、

曲がった所はまっすぐにされ、

でこぼこ道は平らにされる。

6 こうして、すべての人が

神様から遣わされた救い主を見るのだ。』

7 バプテスマを受けに来る人たちに、ヨハネはきびしい口調で話しました。

「まむしの子らめっ！ おまえたちは神様に立ち返ろうともせず、ただ地獄から逃れたい一心でバプテスマを受けようとしている。 8 その前に、悔い改めたことを行ないで示すがいい。 アブラハムの子孫だから大丈夫などとは思ってもみるな。 そんなものは何の役にも立ちはない。 神様はこの石ころからでも、今すぐアブラハムの子孫をお造りになれるのだ。 9 今の今でも、神様のさばきの斧はふりかぶられ、おまえたちを根もとから切り倒そうと待ちかまえている。 そうだ。 良い実を結ばない木は、すぐにも切り倒され、火に投げ込まれてしまうのだ。」

10 「じゃあ、いったいどうすればいいんです？」

11 こう尋ねる群衆に、ヨハネはずばり答えました。「下着を二枚持っていたら、一枚は貧しい人に与えよ。余分の食べ物があったら、お腹をすかせている人に与えよ。」

12 取税人たち〔ローマに納める税金をあくどいやり方で取り立て、人々から毛虫のようにきらわれていた〕でさえ、バプテスマを受けようと出かけて来ました。そして、恐る恐る「あの一、私どもは、どうしたらよろしいので？」と尋ねました。

13 「正直になれ。ローマ政府が決めた以上の税金を取り立ててはいけない。」

14 兵士たちも尋ねました。「おれたちやあ、どうすりゃいいんだね。」

「脅しや暴力で金をゆすったり、何もしない人を訴えたりしてはいけない。給料で満足しろ。」

15 人々はみな、まもなく救い主がおいでになると期待していました。そして、もしかしたらヨハネがキリストではないかとも考えました。

16 この疑問を、ヨハネはきっぱり否定しました。「私はただ水でバプテスマを授けている。しかし、もうすぐ、私よりはるかに権威ある方がおいでになるのだ。その方のしもべとなる値打さえ、私にはない。いいか。その方は、聖霊と火でバプテスマをお授けになる。17 また、麦と、もみがらとをふるい分け、麦は倉に納め、もみがらを永久に消えない火で焼き尽くされるのだ。」18 ヨハネは、ほかにも多くのことを教え、神のすばらしい知らせを伝えました。

19 20〔当時、ガリラヤの領主ヘロデが、兄嫁のヘロデヤを横取りするなど、悪事を重ねていたので、ヨハネはおおびらに非難しました。そのため、捕らえられ、牢獄にたたき込まれてしまいました。こうしてヘロデは、多くの悪事に、さらにもう一つ悪事を重ねたのです。〕21 さて、そうしたある日のこと、イエスは、ヨハネからバプテスマを受ける群衆にお加わりになりました。バプテスマをお受けになり、祈っておられると、天が開き、22 聖霊が鳩のようにイエスにお下りになりました。そして、天から「あなたはわたしの愛する子、わたしの喜びだ」という声が聞こえました。

イエスの家系

23 - 38 イエスが公に教え始められたのは、およそ三十歳のころでした。

人々はイエスを、ヨセフの息子とっていました。

このヨセフの父はヘリ、

ヘリの父はマタテ、

マタテの父はレビ、

レビの父はメルキ、

メルキの父はヤンナイ、

ヤンナイの父はヨセフ、

ヨセフの父はマタテヤ、

マタテヤの父はアモス、

アモスの父はナホム、

ナホムの父はエスリ、
エスリの父はナンガイ、
ナンガイの父はマハテ、
マハテの父はマタテヤ、
マタテヤの父はシメイ、
シメイの父はヨセク、
ヨセクの父はヨダ、
ヨダの父はヨハナン、
ヨハナンの父はレサ、
レサの父はゾロバベル、
ゾロバベルの父はサラテル、
サラテルの父はネリ、
ネリの父はメルキ、
メルキの父はアデイ、
アデイの父はコサム、
コサムの父はエルマダム、
エルマダムの父はエル、
エルの父はヨシュア、
ヨシュアの父はエリエゼル、
エリエゼルの父はヨリム、
ヨリムの父はマタテ、
マタテの父はレビ、
レビの父はシメオン、
シメオンの父はユダ、
ユダの父はヨセフ、
ヨセフの父はヨナム、
ヨナムの父はエリヤキム、
エリヤキムの父はメレヤ、
メレヤの父はメナ、
メナの父はマタタ、
マタタの父はナタン、
ナタンの父はダビデ、
ダビデの父はエッサイ、
エッサイの父はオベデ、
オベデの父はボアズ、
ボアズの父はサラ、

サラの父はナアソン、
ナアソンの父はアミナダブ、
アミナダブの父はアデミン、
アデミンの父はアルニ、
アルニの父はエスロン、
エスロンの父はパレス、
パレスの父はユダ、
ユダの父はヤコブ、
ヤコブの父はイサク、
イサクの父はアブラハム、
アブラハムの父はテラ、
テラの父はナホル、
ナホルの父はセルグ、
セルグの父はレウ、
レウの父はペレグ、
ペレグの父はエベル、
エベルの父はサラ、
サラの父はカイナン、
カイナンの父はアルパクサデ、
アルパクサデの父はセム、
セムの父はノア、
ノアの父はラメク、
ラメクの父はメトセラ、
メトセラの父はエノク、
エノクの父はヤレデ、
ヤレデの父はマハラレル、
マハラレルの父はカイナン、
カイナンの父はエノス、
エノスの父はセツ、
セツの父はアダム、
アダムの父は神です。

▪

四

イエス、悪魔に試される

1 さて、イエスは聖霊に満たされ、ヨルダン川をあとにすると、御霊に導かれるまま、ユダヤの荒野に向かわれました。 2そこで、悪魔が四十日間、イエスを誘惑したのです。

その間、何も口にされなかったので、空腹を覚えられました。

3 その時です。 悪魔がたくみに誘いかけました。 「もしあんたが神の子なら、ここに転がっている石をパンに変えてみたらどうだい。」

4 しかしイエスは、お答えになりました。 「『人はただパンだけで生きるのではない』と聖書（旧約）に書いてあるではないかっ！」

5 次に悪魔は、イエスを高い所へ連れて行き、一瞬のうちに、世界の国々とその繁栄ぶりをを見せて言いました。

6 7 「さあ、ここにひれ伏して、このおれ様を拝んでみろ。 そうすりゃあ、これらの国々とその栄光とを、全部やってもいいぜ。 何もかも、このおれ様のもの、おれ様の自由だからな。」

8 イエスはお答えになりました。 「『神である主だけを礼拝し、主にだけ従え』と聖書（旧約）に書いてあるではないかっ！」

9 さらに悪魔は、イエスをエルサレムへ連れて行き、神殿のてっぺんに立たせて言いました。 「さあ、ほんとうに神の子だと言うなら、ここから飛び降りてみろ。 10 聖書には『神様は、御使いを送って、 11 あなたを支えさせ、あなたが岩の上に落ちて砕かれることのないように守られる』と、はっきり書いてあるんだから。」

12 しかしイエスは、お答えになりました。 「『あなたの神である主を、試してはならない』とも書いてあるっ！」

13 あの手この手と誘惑のかぎりを尽くすと、悪魔は一時、イエスから離れました。
イエス、活動を始める

14 イエスが、聖霊の力に満たされてガリラヤにお戻りになると、まもなく、その地方一帯に評判が広まりました。 15 あちこちの会堂で教えをお語りになるイエスは、人々の賞賛の的でした。

16 それからイエスは、少年時代を過ごしたナザレにお帰りになり、いつものように、土曜日に会堂へ行かれました。 聖書を朗読しようと席を立つと、 17 預言者イザヤの書が手渡されたので、次の個所をお開きになりました。

18 19 「わたしの上に主の御霊がとどまっておられる。
主は、貧しい人たちにこのすばらしい知らせを伝えるために、
わたしを任命された。

主はわたしを遣わして、
捕虜には解放を、
盲人には視力の回復を告げられる。
踏みにじられている人を自由にし、
主の恵みの年を告げられる。」

20 朗読を終えると、聖書を閉じ、係りの者に返して、腰をおろされました。 みんなの目はいつせいにイエスに注がれました。 21 それにこたえるように、イエスはこう宣

言なさいました。「この聖書のことばは、今日、実現したのです。」

22 人々はみなイエスをほめ、そのことばのすばらしさに驚きました。ところが一方では、「いったいどうなってんだ。ただのヨセフのせがれじゃないか」とささやき合いました。

23 そこで、イエスは言われました。「たぶん、あなたがたは、『医者よ、自分を治してみろ』ということわざを引いて、『カペナウムで行なった奇蹟を、郷里でもしてみせろ』と言うのでしょうか。24 だが、はっきり言いましょう。どんな預言者でも、故郷では歓迎されないものです。25 26 たとえば、エリヤはどうだったのでしょうか。三年半ものあいだ雨がなく、国中が大ききんに見舞われた時、イスラエルには助けを求める未亡人が大ぜいいました。だが、当のエリヤは、そういう人たちのところへではなく、わざわざシドンのサレプタに住む外国人の未亡人のところへ遣わされ、奇蹟によって彼女を助けました。27 また預言者エリシャの場合はどうだったのでしょうか。ユダヤにも大ぜい、らい病人がいたというのに、そのだれもが治されず、ただシリヤ人ナアマンだけが治されたではありませんか。」

28 こう言われて、会堂にいた人たちはもうれつに腹を立てました。29 どっとイエスに襲いかかり、町が建っている丘のがけつぷちまで連れて行きました。そこから突き落とすつもりだったのです。30 ところがイエスは、群衆の間をすり抜け、去って行かれました。

31 それから、ガリラヤの町カペナウムに帰り、毎土曜日、会堂で教えを宣べ伝えられました。32 ここでもまた、人々はイエスの教えに驚きました。イエスが、自分を権威づけるために、むやみに他人の意見を引用するのではなく、真理を知っている者のように語られたからです。

33 ある時、会堂で教えておられると、悪霊に取りつかれた男が、イエスに向かって、大声でわめき立てました。

34 「やいやい、ナザレのイエス。お願いだから出てってくれよ！ おれたちをどうしようってんだ。おれたちを滅ぼしに来たんだろが。あんたがだれかって？ よーくわかってらあ。神のきよい御子様よ。」

35 イエスは悪霊をさえぎり、「黙りなさい。その人から出て行きなさい」とお命じになりました。すると突然、悪霊は、人々の目の前で男を投げ倒しましたが、それ以上は何の危害も加えずに出て行きました。

36 あっけにとられた人々は、口々に言い合いました。「悪霊までが言うことを聞くなんてなあ！ この方のことばには、なんという力があるんだろが。」37 こうしてイエスのうわさは、この地方一帯に、野火のような勢いで広まりました。

38 その日、イエスは会堂から、シモンの家へ行かれました。すると、シモンのしゅうとめが高熱にうなされているところでした。「お願いします。治してやってください」と頼まれて、39 イエスはベッドのそばに立ち、熱病をおしかりになりました。する

とどうでしょう。　たちまち熱がひき、平熱に戻ったしゅうとめは、すぐに起き上がり、食事の用意を始めたではありませんか。

40　夕方になると、病人を連れた村の人たちが、ぞくぞく詰めかけました。　イエスは、どんな病気であろうと、連れて来られた病人一人一人にさわって、治されました。　41中には悪霊に取りつかれた人もいましたが、イエスの命令一下、悪霊は大声で、「あんたは神の子だっ!」と叫びながら出て行きました。　イエスはこの悪霊にきつく口止めなさいました。　悪霊が、イエスはキリスト（救い主）だと知っていたからです。

42　翌朝早く、イエスはただ一人、人気のない寂しい所へ行かれました。　人々はあちこち捜し回り、やっとのことでイエスを見つけ出すと、もうどこへも行かないで、ずっとここにいてくださいと、しきりに頼みました。　43ところがイエスは、お答えになりました。「ほかの町々にも、神のすばらしい知らせを伝えなければならないのです。　そのために、わたしは来たのですから。」　44こうしてイエスは、ユダヤ中を旅し、ほうばうの会堂で教えをお語りになりました。

五

イエス、弟子を集める

1　ある日、イエスがゲネサレ湖のほとりで教えを宣傳しておられるところへ、大ぜいの人が神のことばを聞こうと押しかけました。　23ふと見ると、水ぎわの二そうの小舟で、漁師たちがせっせと網を洗っています。　イエスはそのうちの一そうに乗り込んで、持ち主のシモンに少しこぎ出してもらい、舟の中に座ったまま、群衆に教えられました。

4　お話が終わると、シモンにおっしゃいました。「さあ、もっと沖へこぎ出して、網をおろしてごらんなさい。　たくさん魚がとれますよ。」

5　「でも先生。　おれたちは夜通し一生懸命働いたんですぜ。　なのに、雑魚一匹とれなかった。　だけど、まあ、せつかくそうおっしゃるんだから、もう一度やってみますがね……。」

6　ところがどうでしょう。　今度は網が破れるほどたくさんの魚がとれたのです。　7あまり多くて、手がつけれません。　大声で助けを求めました。　仲間の舟が来ましたが、二そうとも魚でいっぱいになり、今にも沈みそうです。

8　シモン・ペテロは事の真相に気づくと、あわててイエスの前にひれ伏し、「ああ、先生。　どうぞ私みたいな者から離れてください。　私は罪深い人間で、とてもおそばへは寄れません」と叫びました。　9あまりの大漁に、ペテロも仲間たちも恐ろしくなったからです。

10仲間には、ゼベダイの息子のヤコブやヨハネもいました。　イエスはシモンに、「こわがらなくてもいいのです。　今からは人間をとる漁師になるのですから」と言われました。

11　岸へ上がると、彼らは何もかも捨てて、イエスにお従いしました。

イエス、病気を治す

12　イエスがある村におられた時のことです。　そこに、らい病に全身を冒された男がいました。　彼はイエスを見るや、その前にひれ伏し、額を地面にこすりつけて頼みまし

た。

「お願いでございますっ！ どうぞ私の体を、体をもとどおりにしてください。 あなた様のお気持ちひとつで治るのですから。」

13 イエスは手を伸ばして男にさわり、「治してあげましょう。 どれどれ、さあ、もう大丈夫ですよ」と言われました。 すると驚いたことに、らい病はたちまち消え去り、あとかたもなくなったのです。 14 「このことをだれにも話してはいけませんよ。 すぐに祭司のところへ行って、体を調べてもらい、モーセの法律どおりのささげ物をしなさい。 そうすれば、病気が治ったことが、みんなの前で証明されるのです。」 こう言われたにもかかわらず、 15 イエスのうわさはあつという間に広まり、大ぜいの人が教えを聞こう、病気を治してもらおうと詰めかけました。 16 しかしイエスは、何度も荒野に身を避け、祈っておられました。

17 ある日、イエスが教えておられると、パリサイ人（特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）と法律の専門家が数人そばに座っていました。 [ガリラヤやユダヤのすべての村、またエルサレムから来た人たちです。] イエスには、病気を治す神の力がありませんでした。

18 19 その時、数人の人がやって来ました。 見ると、中風の男を、それも、ふとんごとかついでいます。 彼らは、何とか群衆をかき分けてイエスのところへ行こうとしましたが、とても近づけたものではありません。 しかたなく、屋根にのぼり、天井に穴をあけ、病人をふとんごと、人々の真ん中に立っておられるイエスの目の前につり降ろしました。

20 イエスはこれほどまでの信仰を見て、病人に、「あなたの罪は赦されました」と宣言なさいました。

21 「なんて罰あたりなことばだっ！ いったい何様だと思ってるのか。 冒涇だ！ 明らかに神様を汚す言葉だ。 罪を赦すなんて、神様にしかできないことなのに……。」パリサイ人や法律の専門家たちは、心の中で強く反発しました。

22 それを見抜いたイエスは、「なぜ、わたしのことばが神を汚すことになるのですか。」

23 24 この人に、『あなたの罪は赦されました』と言うのと、『起きて歩きなさい』と言うのと、どちらがむずかしいですか。 わたしは病気を治す力も、罪を赦す権威も持っているのです。 それを証明してみせましょう」と言い、中風の男に、「さあ、起きなさい。 床をたたんで、家に帰りなさい」とお命じになりました。

25 男はぱっとはね起き、並み居る人をしり目に、すぐに床を取り上げると、神を賛美しながら帰って行きました。 26 居合わせた人たちはたいへんです。 みな恐れに取りつかれ、「不思議だ。 まるで考えられないことだ」と幾度もくり返しては、神をほめたたえました。

27 このあと、町を出ようとされた時、一人の取税人が税金取立所に座っているのが見えました。 その男の名はレビと言いました。 「さあ、ついて来て、わたしの弟子にな

りなさい。」 28 イエスの誘いに、レビは何もかも捨て、さっと立ち上がり、あとに従いました。

29 まもなくレビは、家で、イエスのために盛大な歓迎会を催しました。多くの取税人仲間をはじめ、大ぜいの人が招かれました。

パリサイ人たちの言いがかり

30 ところが、パリサイ人や法律の専門家たちはこの光景を見て、弟子たちに激しい非難をあげました。「おまえさんたちは、どうして、こんなくずのような連中とといっしょに食事をするんだい。」

31 イエスは、お答えになりました。「医者が必要なのは病人で、健康な人ではありません。32 わたしは、自分を正しいと思う人を招くためではなく、罪人を招いて、罪を悔い改めさせるために来たのです。」

33 彼らも負けてはいません。今度は違った面から、詰め寄りました。「バプテスマのヨハネの弟子たちは、いつも断食して祈っている。パリサイ人の弟子たちも同様だ。なのに、おまえさんのお弟子たちときたら、平気で飲み食いしている。そのわけを聞かしてもらおうじゃないか。」

34 イエスは言われました。「しあわせな人が断食しますか。結婚披露宴で、花婿の招待客がお腹をすかしたままにいることがあるでしょうか。もちろん、ありえません。

35 しかし、花婿が彼らから引き離される日が来ます。その時こそ、断食するのです。」

36 続いて、もう一つのたとえ話をなさいました。「古い着物に継ぎを当てるのに、新しい着物から布切れを切り取る人がいるのでしょうか。そんなことをしたら、新しい着物もだめになるし、古い着物も継ぎ目が破れて、結局どちらもだいなしです。37 また、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れる人がいるのでしょうか。そんなことをしたら、古い皮袋は新しいぶどう酒の圧力で張り裂け、ぶどう酒もこぼれてしまいます。38 新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れるものです。39 こうも言えます。だれでも古いぶどう酒を飲んだあとで、新しいぶどう酒を口にしたいとは思わないでしょう。『古い物はよい』と言われるとおりです。」

六

安息日の主であるイエス

1 ある安息日のことです。イエスと弟子たちは麦畑の中を歩いていました。弟子たちは歩きながら、麦の穂を摘んでは、手でもみ、殻を取って食べました。

2 パリサイ人たちが目ざとくそれを見つけ、抗議しました。「どう見ても違反だ！ お弟子たちのやってることは何です？ 明らかに刈り入れじゃないか。安息日の労働はユダヤのおきてで禁じられているというのに。」

3 イエスは、お答えになりました。「聖書（旧約）を読んだことがないのですか。ダビデ王とその家来たちが空腹になった時、どうしたでしょうか。4 ダビデ王は神殿に入り、主に供えられた特別なパンを取って食べたではありませんか。これはおきてに反す

ることでしたが、自分ばかりか、家来たちにも分けてあげました。」 5 また、こうも言われました。「わたしは安息日の主です。」

6 今度は別の安息日のことです。 イエスは会堂で教えておられました。 ちょうどそこに、右手の不自由な男が居合わせました。 7 安息日だということで、法律の専門家やパリサイ人たちは、イエスがこの男を治してやるかどうか、うの目たかの目で見ています。何とかしてイエスを訴える口実を見つけようと、必死だったのです。

8 彼らの魂胆を見抜いたイエスは、その男に、「さあ、みんなの真ん中に立ちなさい」とお命じになりました。 男が言われたとおりにすると、 9 イエスはパリサイ人たちに、「ひとつ聞きたいのですが、安息日に良いことをするのと悪いことをするのと、どちらが正しいでしょうか。 人のいのちを救うのと、いのちを奪うのと、どちらが正しいでしょうか」とお尋ねになりました。

10 それから、会衆をぐると見回し、男に、「さあ、手を伸ばしなさい」とおっしゃいました。 そのとおりにすると、なんと、右手はすっかりもとどおりです。 11 これを見たパリサイ人たちは逆上し、イエスを殺そうとたくらみ始めました。

イエス、十二人を選ぶ

12 それからまもなく、イエスは山へ行き、徹夜で祈られました。 13 夜明けごろ、弟子たちを呼び寄せると、特に十二人を選び、「使徒」という名をおつけになりました。 14 - 16 十二人の名前は次のとおりです。

シモン [イエスはペテロともお呼びになりました]、

アンデレ [シモンの兄弟]、

ヤコブ、

ヨハネ、

ピリポ、

バルトロマイ、

マタイ、

トマス、

ヤコブ [アルパヨの息子]、

シモン [「熱心党」という急進派グループのメンバー]、

ユダ [ヤコブの息子]、

イスカリオテのユダ [後にイエスを裏切った男]。

17 18 イエスは弟子たちといっしょに山を降り、広々とした所にお立ちになりました。するとほかの大ぜいの弟子と群衆が駆け寄り、たちまちイエスの回りは、人の波でうずまりました。 ユダヤ全地、エルサレム、はるか北のツロやシドンの海岸地方などから、イエスの話を聞き、また病気を治してもらおうと、はるばるやって来た人ばかりです。 悪霊に苦しめられている人もいたので、イエスは治されました。 19 だれもがみな、イエスにさわろうと押し合いへし合いの大騒ぎです。 さわれば、病気を治す力がイエスから

出て、どんな病気もいやされたからです。

20 それからイエスは、弟子たちのほうをふり向き、話し始められました。

「あなたがた貧しい人は幸福です。 神の国はあなたがたのものだからです。 21 いま空腹な人は幸福です。 やがて十分満足するようになるからです。 泣いている人は幸福です。 もうすぐ笑うようになるからです。 22 わたしの弟子だというので、憎まれたり、追い出されたり、悪口を言われたりするなら、なんとすばらしいことでしょう。 23 そんなことになったら、心から喜びなさい。 躍り上がって喜びなさい。 やがて天国で、目を見張るばかりのごほうびが、いただけるからです。 そして、同じような扱いを受けた、昔の預言者たちの仲間入りができるのです。

24 これとは反対に、金持ちたちを待ち受けているのは悲しみだけです。 彼らの幸福はこの地上限りのものだからです。 25 肥え太り、今は栄えていても、やがて恐ろしい飢えの日が来れば、彼らの大笑いは、一瞬にして悲しみに変わるでしょう。 26 ほめそやされる者はあわれです。 偽預言者はいつの時代でも、そのような扱いを受けたからです。

27 いいですか、よく聞くのです。 敵を愛しなさい。 あなたがたを憎む者によくしてやりなさい。 28 あなたがたをのろう者の幸福を祈ってあげなさい。 あなたがたを侮辱する者に神の祝福を祈り求めなさい。

29 もしだれかが頬をなぐったら、もう一方の頬もなぐらせなさい。 また、もしだれかが上着を取ろうとしたら、下着もつけてやりなさい。 30 持ち物は何でも、ほしがる人にやりなさい。 盗難にあっても、それを取り返そうとやきもきしてはいけません。 31 人からしてほしいと思うことを、そのとおり人にもしてあげなさい。

32 愛してくれる人だけを愛したところで、ほめられたことでも何でもありません。 神を知らない人でさえ、それぐらいのことはします。 33 よくしてくれる人にだけ、よくしたところで、何の意味があると言うのでしょうか。 罪人でさえ、それぐらいのことはします。 34 また、返してもらえる人にだけお金を貸したところで、善行と言えるでしょうか。 全額戻るとわかっていれば、どんな悪党でも、仲間にお金を貸してあげます。

35 敵を愛しなさい。 よくしてあげるのです。 返してもらうことなど当てにせず、気前よく貸してあげなさい。 そうすれば、天から、すばらしいごほうびがいただけます。 神の子供になれるのです。 神は、恩知らずの者や極悪人にも、あわれみ深い方だからです。

36 天の父と同じように、あわれみ深い者になりなさい。 37 人のあら捜しをしたり、悪口を言ったりしてはいけません。 自分もそうされないためです。 人には広い心で接しなさい。 そうすれば、彼らも同じようにしてくれるでしょう。 38 与えなさい。 そうすれば与えられます。 彼らは、まずに押し込んだり、揺すり入れたりしてたっぷり量り、あふれるばかりにして返してくれます。 自分が量るそのはかりで、自分も量り返されるのです。」

39 イエスはさらに、もう一つのたとえ話をなさいました。

「盲人が盲人の道案内をしたら、どうなるでしょう。 一人が穴に落ち込めば、もう一人のほうも巻き添えを食うでしょう。 40 生徒が先生より偉くなれますか。 しかし、一生懸命勉強すれば、先生と同じぐらいにはなれます。

41 また、自分の目に材木が入っているのに、どうしてほかの人の目の中にある、おがくずほどの小さなごみを気にするのでしょうか。 42 材木がじゃまで、よく見えもしないのに、どうして、『目にごみが入ってるよ。 取ってあげよう』などと言うのでしょうか。 偽善者よ！ まず自分の目から材木を取り除きなさい。 そうすれば、はっきり見えるようになって、ほかの人の小さなごみを取ってあげることもできるのです。

43 おいしい実をつける木が、まずい実をつけるはずはないし、まずい実をつける木が、おいしい実をつけるはずありません。 44 つまり、木は実によって見分けることができるのです。 いばらにいちじくの実はないし、野ばらにぶどうの実もありません。

45 良い人は良い心から良い行ないを生み出します。 悪い人は隠された悪い心から悪い行ないを生み出します。 心に秘めたことが、ことばになってあふれ出るからです。

46 なぜ、『主よ、主よ』と呼びながら、わたしに従おうとはしないのですか。 47 そばに来て、わたしの教えを聞き、そのとおり実行する人はみな、 48 地面を深く掘つて、岩の上に土台をすえ、その上に家を建てる人のようです。 洪水になり、激流に洗われても、家はびくともしません。 土台がしっかりしているからです。

49 しかし、わたしのことばを聞いても実行しない人は、ちょうど、土台なしで家を建てる人のようです。 激流が押し寄せると、家はあとかたもなく、こわれてしまいます。」

七

すばらしい奇蹟

1 これらのお話を終えると、イエスはカペナウムの町に帰って行かれました。

2 ちょうどそのころ、あるローマ軍の隊長が目をかけていた召使が、病気で死にかかっていたいました。 3 イエスの評判を聞いた隊長は、日頃みんなに尊敬されているユダヤ人の長老たちをイエスのところにやり、召使のいのちを助けに来てくださいと願いました。 4 依頼を受けた長老たちは、この隊長がどんなにすばらしい人物かを説明し、熱心に頼みました。 「あなた様に助けていただく値打のある人がいるとしたら、この方こそふさわしい人です。 5 ユダヤ人を愛し、会堂も建ててくれました。」

6 7 イエスは長老たちといっしょに出かけられました。 家まであとわずかという時、隊長の友人たちが来て、ことづけを伝えました。 「先生。 わざわざおいでくださいませんように。 とても、そんな名誉を受ける資格はございません。 自分でお迎えに上がることに失礼と存じます。 どうぞ今おられる所で、ただひと言おことばをください。 それで十分でございます。 召使は必ず治ります。 8 私も上官の権威の下にあるのですが、その私でさえ部下には権威があります。 たとえば、私が『行け』と命じれば行きますし、『来い』と言えば来ます。 また奴隷にも『あれをやれ』『これをやれ』と言えば、そのと

おりにするのです。」

9 これを聞くと、イエスはたいへん驚き、群衆のほうをふり向いて言われました。「どうです、皆さん。これほど信仰深い人は、イスラエル中でも見たことがありません。」

10 使いの者たちが戻ってみると、どうでしょう。召使はすっかり治っていました。

11 それからまもなく、イエスは弟子たちといっしょにナインの町へ行かれました。いつものように、あとから大ぜいの人がぞろぞろついて行きます。12 町の門の近くで、葬式の行列にばったり出会いました。死んだのは、夫に先立たれた女の一人息子でした。町の人が大ぜい母親に付き添っています。

13 痛々しい母親の姿を見てかわいそうに思ったイエスは、「泣かなくてもいいのですよ」と、やさしく声をおかけになりました。14 そして歩み寄り、棺に手をかけると、かついでいた人たちが立ち止まったので、「少年よ、起きなさい」と言われました。15 すると少年はすぐに起き上がり、回りの人たちに話しかけたではありませんか。イエスは少年を母親に返してあげたのです。

16 人々はびっくりし、ものも言えませんでした。次の瞬間、あちこちから神を賛美する声がわき上がりました。

「大預言者様だっ！」

「神様のお働きだっ！ この目で見たぞっ！」

17 この日の出来事は、あっという間にユダヤ全土と回りの地方一帯に広まりました。イエスとヨハネ

18 イエスのこうした行ないの数々は、バプテスマのヨハネの弟子たちの耳にも入り、細大もらさずヨハネに報告されました。19 20 ヨハネは、弟子を二人イエスのもとへやり、こう尋ねさせました。「あなた様は、ほんとうに私たちの待ち続けてきたお方なののでしょうか。それとも、まだ別の方をお待ちしなければ……。」

21 ちょうどその時、イエスはさまざまな病気にかかった大ぜいの病人を治し、盲人を見えるようにし、悪霊を追い出しておられるところでした。22 イエスの答えはこうでした。「帰って、ヨハネに、今ここで見聞きしたことを話してやりなさい。盲人が見えるようになり、立てなかった人が、今は自分で歩けるようになり、らい病人が治り、耳の聞こえなかった人が聞こえるようになり、死人が生き返り、貧しい人々がすばらしい知らせを聞いていることなどを。23 それから、『わたしを疑わない人はしあわせです』と伝えなさい。」

24 ヨハネの弟子たちが帰ってしまうと、イエスは人々に、ヨハネのことを話し始められました。「ヨハネに会いに荒野へ出かけた時、どんな人物だと考えていましたか。風にそよぐ葦のような人だとでも思ったのですか。25 それとも、きらびやかに着飾った人に会えるとも……。ぜいたくな暮らしをしている人なら宮殿にいます。荒野にはいません。26 あるいは、預言者に会えると期待したのですか。そのとおり、ヨハネは預言者以上の者です。27 彼こそ聖書（旧約）の中で、『見よ。わたしはあなたより

先に使者を送る。その使者は人々に、あなたを迎える準備をさせる』と言われている、その人です。 28 今まで生まれた人の中で、ヨハネほどすぐれた働きをした人はいません。けれども、神の国で一番小さい者も、ヨハネよりはずっと偉大なのです。

29 ヨハネの教えを聞いた人はみな、取税人たちでさえ、神の正しさを認め、バプテスマ（洗礼）を受けました。 30 ただパリサイ人と法律の専門家だけが、そっぽを向いたのです。あつかましくも、神のご計画を退け、ヨハネのバプテスマを拒否したのです。

31 このような人々のことを、どう言ったらいいでしょう。 32 まるで遊び友達に文句を言っている子供のようにです。『結婚式ごっこして遊ぼうって言ったのに、ちっともうれしがってくれないでさ、それで葬式ごっこにしたら、今度は、ぜんぜん悲しがってくれないや』とわめいているのです。 33 つまり、バプテスマのヨハネが何度も断食し、生涯、酒も飲まずにいと、『やつは気が変になっている』ときめつけ、 34 わたしが食事をしたり、ぶどう酒を飲んだりすると、『あいつは大食いの大酒飲み、一番たちの悪い罪人どもの仲間だ』とののしります。 35 けれども、神の知恵の正しさは、神を信じる者たちが証明するのです。」

罪を赦された女

36 あるパリサイ人から食事に招待されたので、イエスは快く応じました。一同が食卓に着いていると、 37 町の女が一人、高価な香油の入った美しいつぼを持ってやって来ました。この女は売春婦でした。 38 女は部屋に入るなり、イエスのうしろにひざまずき、さめざめと泣きました。あまり泣いたので、イエスの足が涙でぬれるほどでした。女はていねいに髪で涙をぬぐい、心を込めて足にくちづけしてから、その上に香油を注ぎかけました。

39 イエスを招待したパリサイ人は、この出来事を見て、「これで、やつが預言者でないことが、はっきりしたぞ。もしほんとうに神様から遣わされた方なら、この女の正体がわかるはずだからな」とひそかに思いました。

40 ところが、イエスは何もかもお見通しでした。

「シモンよ。あなたに言っておきたいことがあります。」

「はい、先生。何でございましょう。」

41 「ある男が二人の人に金を貸しました。一人には百五十万円、もう一人には十五万円でした。 42 ところが二人とも、どうしても借金を返せません。金を貸した男はたいへん思いやりのある人だったので、二人の借金を帳消しにしてあげました。この二人のうちどちらがよけいに、貸し主に感謝し、彼を愛したでしょうか。」

43 「たくさん借りていたほうでしょうね。」シモンの答えに、イエスも、「そのとおりです」とうなずかれました。

44 それから、ひざまずいている女のほうをふり向き、シモンに言われました。「ほら、この女を見なさい。わたしが自宅に来た時、あなたは足を洗う水さえ出してくれませんでした。ところがこの女は、涙でわたしの足を洗い、髪でふいてくれました。 4

5 あなたはあいさつのくちづけをしてくれなかったが、この女はわたしが入って来た時から、何度も足にくちづけしてくれました。 46 それにどうです。 あなたはわたしの頭にオリーブ油を注いでくれましたか。 それが、あたりまえの礼儀というものでしょう。けれども、この女は足にこんなに高価な香油を注いでくれたのです。 47 だから、この女の多くの罪は赦されました。 この女がわたしを多く愛してくれたからです。 少ししか赦されない者は、少ししか愛さないのです。」

48 そして女に言われました。「あなたの罪は赦されているのですよ。」

49 その場に同席していた人たちが、心の中でつぶやき始めました。「罪を赦すなんて、いったい自分を何様だと思ってるんだろう。」

50 しかし、イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心してお帰りなさい」と言われました。

八

種まきのたとえ話

1 その後しばらくして、イエスはガリラヤの町や村を回り、神のすばらしい知らせを伝え始められました。 十二人の弟子も同行しました。 2 イエスに悪霊を追い出してもらったり、病気を治してもらったりした女たちもいっしょでした。 この中には、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラのマリヤや、 3 ヘロデ王の執事クーザの妻ヨハンナ、スザンナをはじめ、財産を投げ出して、イエスや弟子たちの世話をする大ぜいの婦人がいました。

4 ある日、話を聞こうと、大ぜいの群衆が町々村々から押しかけたので、イエスはこんなたとえ話をなさいました。

5 「一人の農夫が、種まきをしようと畑に出かけました。 種をまいているうちに、ある種は道ばたに落ちて、踏みつけられ、そのうち鳥が来て食べてしまいました。 6 土の浅い石地に落ちた種もありました。 それは芽を出したのですが、水分が足りないので、すぐ枯れてしまいました。 7 いばらの中に落ちた種もありましたが、いばらがいっしょに生え出て、結局、生長できませんでした。 8 しかし、中には良い土壌に落ちた種もありました。 それはぐんぐん育ち、まいた種の百倍もの実を結びました。」

イエスは話しながら、「聞く耳のある人はよく聞きなさい」と、みんなの注意をうながされました。

9 「このたとえはどういう意味なんですか。」弟子たちに質問されて、 10 イエスはお答えになりました。

「あなたがたには神の国を理解することが許されていますが、群衆はそうではありません。だから、たとえで話すのです。 彼らは見たり聞いたりしても、少しも理解しようとしません。」

11 さて、このたとえの意味を説明しましょう。 種とは神の教えのことです。 12 ある種が落ちた道ばたとは、神のことばを聞いても、受けいれない頑固な心を表わします。

やがて悪魔が来て、それを持ち去り、信じて救われるのをじゃまするのです。 13次に、土の浅い石地とは、喜んで教えは聞くものの、ほんとうの意味で心に根を張れない状態のことです。 教えられたことはいちいちもつともだと納得し、しばらくの間は信じているのですが、迫害の嵐がやってくると、すぐにぐらついてしまうのです。 14いばらの中の種とは、聞いて信じて、その後、いろいろな心配事や金銭欲、また人生のさまざまな重荷や快樂などに、信仰を妨げられてしまう人のことです。 これでは、せっかく教えを聞いても、だれにも話して聞かせることができません。

15 良い土壌とは、素直で正直な心の人を表わします。 こういう人は、神のことばを聞くと、それをしっかり守り、辛抱強くほかの人に話してあげるので、大ぜいの人が信じるようになるのです。」

16 また、次のようなたとえ話もなさいました。

「ランプをつけてから、すっぽりおおいをかけ、光をさえぎる人がいるでしょうか。 ランプはあたりを照らすように台の上に置くものです。 17これは、いつの日か、すべてのことが明るみに出されることを示しています。 18だから、どのように聞くか、よく注意しなさい。 持っている者はもっとたくさん与えられ、持っていない者は、持っているつもりのも物までも、取り上げられてしまうからです。」

19 ある時、母と弟たちがイエスに会いに来ました。 ところが、イエスが教えておられた家は黒山の人ばかりで、とても中へは入れません。 20だれかが、「先生。 お母様と弟さんがたがお見えですよ」と知らせると、 21イエスはみんなを見回し、「わたしの母、わたしの兄弟たちとは、神のことばを聞いて、それを守る者のことです」とお答えになりました。

イエス、嵐を静める

22 そのころのことです。 ある日、イエスは弟子たちと舟に乗り込み、「さあ、湖の向こう岸に渡ろう」と言われました。 23途中、イエスが横になられ、眠っておられると、風が出てきました。 風はだんだん強くなります。 恐ろしい嵐に、舟は水をかぶって、今にも沈みそうです。 もう一刻の猶予もありません。

24 弟子たちはあわててイエスを揺り起こし、「先生、先生。 舟が沈みそうですっ！」と叫びました。 そこで、イエスはゆっくり起き上がると、「静まれっ！」と嵐に命じられました。 するとどうでしょう。 たちまち風も波もおさまり、何事もなかったかのように静かになりました。

25 イエスはおっしゃいました。 「ああ、あなたがたの信仰はどこにあるのですか。」弟子たちは驚くやら恐ろしいやらで、「なんてお方だろう。 風や波までが言うことを聞くとは！」とささやき合いました。

26 こうして一行は、無事ガリラヤの対岸にあるゲラサ人の地方に着きました。 27舟から上がると、この町に住む男が一人、イエスに会いに来ました。 長年、悪霊に取りつかれ、家もなく、裸のまま、墓場をねぐらにしている男でした。 28男はイエスを見

るやいなや、恐ろしい叫び声をあげて、その場に倒れました。「やいやい、おれ様をどうしようってんだっ！いと高き神の子イエス様よ。お願いだから、苦しめないでくれっ！」

29 こうわめいたのは、イエスが悪霊に、出て行けとお命じになったからです。今までは、悪霊が何度も男に取りつくので、鎖でしっかり縛りつけておくのですが、どんなに太い鎖でも、いつもやすやすと引きちぎり、荒野へ逃げてしまうのでした。30「あなたの名前は？」というイエスの質問に、悪霊は、「レギオン（ローマ軍の一軍団）だ」と答えました。男には何千という悪霊が入り込んでいたからです。31悪霊どもは、底なしの穴に行くことだけはかんべんしてくれと、必死に願ひ続けました。

32 うまいことに、近くの山の中腹で、豚の群れがえさをあさっています。悪霊どもは、しめたとばかり、その豚の中に入らせてくれと頼みました。イエスがお許しになると、33すぐさまその男から出て、豚の中に入りました。そのとたんです。群れはいっせいに駆け降り、がけから湖に飛び込んで、おぼれ死んでしまいました。34びっくりした豚飼いたちは近くの町に駆け込み、この出来事を言いふらしました。

35 まもなく、大ぜいの人々が、どやどや集まって来ました。自分の目で確かめようと思ったのです。と、どうでしょう。今まで悪霊に取りつかれていた男が、きちんと服を着込み、すっかり正気に戻って、イエスの前に座っているではありませんか。みんなは、あっけにとられてしまいました。36初めから一部始終を目撃していた人たちが、事細かにその時の状況を説明しました。37それを聞くと、人々はますます恐ろしくなり、イエスに、ここから立ちのいて、もうこれ以上かわり合わないでくれと頼み始めました。それで、イエスは舟に戻り、また向こう岸へ帰って行かれました。38悪霊に取りつかれていた男は、ぜひにとお伴を願ひ出ましたが、イエスはお許しになりません。39「家族のところへ帰りなさい。神がどんなにすばらしいことをしてくださったかを、話してあげるのです。」こう言われて、男は町中の人に、イエスのすばらしい奇蹟を話して回りました。

イエス、娘を生き返らす

40 ガリラヤに帰ると、イエスは心からの歓迎を受けました。人々はおいでを待ちわびていたのです。

41 その時、ユダヤの会堂管理人で、ヤイロという名の人々が来て、イエスの足もとにひれ伏し、家においでくださいと願ひました。42十二歳になる一人娘が、危篤状態だったのです。熱心な頼みに、イエスは人垣をかき分けるようにして、ヤイロの家に向かわれました。

4344途中で、一人の女が、いやされたい一心で、うしろからイエスにさわりました。十二年もの間、出血の止まらない病気に悩まされ、どうしても治らなかったからです。ところが、イエスの着物のふさにさわったとたん、出血は止まりました。

45 イエスは、「わたしにさわったのはだれですか」とお尋ねになりました。みんなが

めいめい自分ではないと答えた時、ペテロが口を出しました。「先生。 わかりっこありませんよ。 回りにはこんなに大ぜいの人がひしめき合っているんですから……。」

46 「いや、だれかがさわりました。 力が出て行くのを感じたのですから。」

47 女は、イエスが何もかもご存じなので、わなわな震えだしました。 とても隠しきれません。 しかたなくイエスの前にひれ伏し、さわった訳とすっかりよくなったこととを、包み隠さず打ち明けました。

48 イエスは女に、「あなたの信仰があなたを治したのですよ。 さあ、安心してお帰りなさい」とおっしゃいました。

49 まだイエスが話し終えないうちに、ヤイロの家から使いの者が駆けつけ、こう言いました。「どんな様っ！ お嬢様は、たった今お亡くなり……。 先生にわざわざおいでいただいても、手遅れでございます。」

50 これを聞いて、イエスはヤイロに言われました。「恐れなくて、わたしを信じていなさい。 娘さんは必ずよくなりますから。」

51 家に着くと、イエスはペテロ、ヨハネ、ヤコブの三人の弟子と、両親のほかはだれも、中へ入ってはいけなさいと言われました。 52 家の中は嘆き悲しむ人でごった返していたのです。「もう泣くのはやめなさい。 娘さんは死んだものではありません。 ただ眠っているだけです。」 53 娘が死んだことをよく知っていた人々は、このイエスのことばをあざ笑いました。

54 イエスが手を取り、「さあ、起きなさい」と呼びかけると、 55 その瞬間、娘は生き返り、すぐに起き上がったではありませんか。 イエスは何か食べさせるようにとお言いつけになりました。 56 あまりのことに、両親はあつけにとられていたからです。 そして、このことをだれにも話さないようにと、堅く口止めなさいました。

・

九

イエス、神の国を告げ知らせる

1 ある日、イエスは十二人の弟子を呼び集め、悪霊を追い出し、病気を治す力と權威とお授けになりました。 2 こうして、すべての人に神の国が来ることを告げ知らせ、病人を治すために、派遣されたのです。

3 イエスの指示はこうでした。「杖も、旅行袋も、食べ物も、お金も持って行ってはいけません。 また下着も二枚はいりません。 4 どの町でも、ずっと同じ家に泊まりなさい。

5 もし、町の人たちがあなたがたのことばに耳を貸さないなら、回れ右して、急いで町から出なさい。 その時は、神が怒っておられる証拠に、足のちりを払い落としなさい。」

6 弟子たちは村々を巡り、神のすばらしい知らせを伝え、病人を治して歩きました。

7 イエスの奇蹟のうわさを耳にした領主ヘロデは、ひどくとまどいました。「きっとバプテスマのヨハネが生き返ったのだ」と言う人もあれば、 8 「いや、エリヤか、昔の

預言者の一人だろう」と主張する人もいるというぐあいに、それぞれ、かつてなことを言い合っていたからです。とにかく、うわさはうわさを呼び、いろいろな憶測が国中に乱れ飛びました。

9「ヨハネなら、確かにわしが首をはねた。だとしたら、この不思議なうわさの主はいったい何者だろう。」ヘロデは、自分でイエスに会ってみようと思いました。

10 さて、旅から帰った弟子たちは、その経過を残らず報告しました。イエスは彼らを連れ、ひそかにベツサイダの町に行こうとされましたが、11 人々の目を逃れることはできませんでした。大ぜいの群衆が、あとを追って来たのです。そのような彼らを、イエスは心から喜んで迎え、神の国について教えたり、病人を治したりなさいました。

12 そのうち、日も暮れ始めたので、十二人の弟子たちはイエスのところへ来て頼みました。「先生。この人たちを解散させてください。近くの村や農場に行って、食べ物と今夜の宿を見つけることができるようにしてやらなければ……。こんな寂しい所じゃ、何もありませんから。」

13 「いいえ。あなたがたで、みんなに食べ物をあげるのです。」イエスの答えに、弟子たちはあきれ顔で抗議しました。「何ですって！ 手もとには、パンが五つと魚が二匹あるだけです。これだけ大ぜいの人を食べる物を、買い出しに行くとでもおっしゃるんですか。」14 こう言うのも、むりはありません。男だけでも五千人はいたのですから。

しかし、イエスは、「さあ、みんなを五十人ぐらいずつのグループに分けて、座らせなさい」と言われます。15 弟子たちは訳がわからないながらも、指示どおりにしました。

16 そこでイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げ、感謝の祈りをささげられました。それからパンをちぎり、人々に配るため、弟子たちに手渡されました。17 みんながお腹いっぱい食べたあと、パンくずを集めると、なんと十二かごにもなりました。

18 ある日のこと、イエスは一人で祈っておられました。弟子たちは少し離れた所で待っています。しばらくしてイエスは歩み寄り、「人々は、わたしのことをだれだと言っていますか」とお尋ねになりました。

19 「バプテスマのヨハネだと言う者もいますし、エリヤだと言う者もいます。それに、昔の預言者が生き返ったのだと言っている者も……。」

20 「では、あなたがたはどう思っているのですか。」即座にペテロが答えました。「あなた様こそ神のキリスト（救い主）です！」

21 しかしイエスは、このことをだれにも言うてはいけませんときびしく戒め、22 「わたしは多くの苦しみを受け、ユダヤ人の指導者たち、長老、祭司長、法律の専門家たちに捨てられ、殺され、そして三日目に復活するのです」とお話しになりました。

23 それから、一同に言われました。

「いいですか。わたしについて来たい人はだれでも、自分のつごうや利益を考えてはい

けません。日々自分の十字架を背負い、わたしのすぐあとについて来なさい。 24 いのちを守ることにばかりあくせくしている者は、かえってそれを失います。 ですが、わたしのためにいのちを投げ出す者は、それを救うのです。 25 たとい全世界を手に入れても、ほんとうの自分を失ってしまったら、何の役にも立ちません。

26 メシヤのわたしも、自分自身と父と聖なる御使いとの栄光を帯びてやって来る時、わたしとわたしのことばとを恥じるような者たちのことを、恥じるでしょう。 27 よく言っておきますが、あなたがたの中には、神の国を見ないうちは決して死なない者がいるのです。」

栄光に輝くイエス

28 八日が過ぎました。 イエスはペテロ、ヨハネ、ヤコブを連れ、祈るために山に登られました。 29 祈っておられるうちに……、どうでしょう。 イエスの顔は輝きだし、着物はまばゆいばかり白くなったのです。 30 その時、二人の人が現われ、いかにも親しげにイエスと話し始めました。 なんとモーセとエリヤです。 31 二人の姿も輝いています。 三人は、神の計画どおり、イエスがエルサレムで最期を遂げることについて話し合っていたのです。

32 ペテロもほかの二人も、まぶたが重くなり、ぐっすり寝込んでしまいました。 はっと気がつくと、イエスは栄光に包まれ、モーセとエリヤといっしょに立っておられます。 33 二人が立ち去ろうとするのを見て、すっかり動転していたペテロは、何を言っているのかもわからないまま、思わず口走りました。「先生。 なんて素晴らしいんでしょう！ そうだ。 小屋を三つお建てしましょう！ 一つは先生のために。 それから、モーセ様とエリヤ様のためにも一つずつ。」

34 ペテロがまだ言い終わらないうちに、光り輝く雲がもくもく立ち込め、一同をすっぽりおおったので、弟子たちは恐ろしさのあまり、がたがた震えだしました。 35 すると雲の中から「これはわたしの子、わたしの選んだ者。 この人の言うことを聞け」という声がしたのです。

36 その声がやむと、イエスの姿しか見あたりません。 三人の弟子たちは、この時のことを、ずっとあとになるまで、だれにも話しませんでした。

山を降り、エルサレムを目指して進むイエス

37 次の日、一行が山から降りて来ると、大ぜいの群衆が待ちかまえているところでした。 38 この時、群衆の中から一人の男が叫びました。「先生、どうかお助けを！ 息子を見てやってください。 たった一人の息子なんです。 39なのに、悪霊に取りつかれて……。 なにしろ、大声でわめくは、ひきつけを起こして口からあわを吹くはで、たいへんなんです。 それも一度や二度じゃないんで。 悪霊は何度も何度も取りついて、発作を起こさせ、なかなか離れようとしません。 40そこで、ここにいらっしゃるお弟子さんたちに、悪霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、だめでした。」

41 イエスは弟子たちに言われました。「ああ、全く手に負えない、不信仰な人たち

よ！　いつまで我慢しなければならいのでしょうか。さあ、その子を連れて来なさい。」

42　少年が近寄ると、悪霊はその子を押し倒し、激しくひきつけさせました。　イエスは悪霊に出て行けと命じ、すっかり元気になった少年を、父親の手に返してあげました。

43　人々は、こんなことは神にしかできないと考え、恐ろしくなりました。

人々がイエスの巻き起こすさまざまの不思議なことについて、盛んにほめたてていた時、イエスは弟子たちにおっしゃいました。

44　「いいですか、よく聞いて、しっかり覚えておきなさい。　メシヤ（救い主）のわたしは、やがて裏切られるのです。」　45ところが弟子たちには、何のことか、さっぱりわかりません。　このことばの真意が隠されていたからです。　それに、何となくこわくて、聞き返すこともできませんでした。

46　さて、弟子たちの間で、やがて来る神の国ではだれが一番偉いかという議論が持ち上がりました。　47彼らの考えを見抜いたイエスは、小さな子供を一人そばに立たせて、

48お話しになりました。「だれでも、このように小さな子供を大切にする者は、実は、わたしを大切にしているのです。　またわたしを大切にする者は、わたしを遣わされた神を大切にしているのです。　わかりましたね。　最も謙そんな者が、ほんとうは最も偉大な者となるのです。」　49弟子のヨハネが、そばに来て報告しました。「先生。　無断であなた様のお名前を使い、悪霊を追い出している人を見かけました。　もともと、仲間じゃなかったので、すぐやめさせましたがね。」

50　ところが、イエスは言われました。「そんなことをしてはいけません。　敵対しない者はみな、味方なのですから。」

51　天に帰られる日がだんだん近づきました。　イエスは鉄のように強固な意志を内に秘め、エルサレムを目指して、ひたすら進んで行かれました。

52　そんなある日、イエスは使いを出して、サマリヤ人の村で泊まろうとなさいました。

53ところが、使いの者は追い返されてしまいました。　サマリヤ人が、エルサレムに向かう一行だとわかり、村に迎え入れるのをいやがったからです。

54　このいきさつを聞いたヤコブとヨハネは、かっとなりました。「先生。　天から火を呼び下し、やつらを焼き滅ぼしてやりましょうか。」　55しかし、イエスはふり返り、二人をおしかりになりました。　56一行は別の村に向かいました。

57　道を歩いている時、ある人がイエスに言いました。「あなた様がおいでになる所なら、どんな所へでもまいります。」

58　イエスはお答えになりました。「これだけは、よく覚えておきなさい。　わたしには寝る所さえないのです。　きつねにも穴があり、鳥にも巣があるというのに、天から来たメシヤのわたしには、この地上には住む家もないのです。」

59　またある時、イエスは一人の男に、弟子になるようにと声をおかけになりました。男は承知しましたが、ただ父親が死んで葬式を出すまで待つてくださと頼みました。

60　イエスはお答えになりました。「死人のことは、あとに残った者たちに任せてお

きなさい。 あなたの務めは、出て行って、世界中の人たちに神の国が来ると伝えることです。」

6 1 別の人はこうも言いました。 「はい、先生。 喜んでお従います。でもその前に、家族の許しを得てきたいのですが……。」

6 2 しかし、イエスは言われました。 「ほんの片時でも、その人のために計画された仕事から目をそらす者は、神の国にふさわしくありません。」

一〇

伝道の心がまえ

1 さてイエスは、ほかに七十人の弟子を選び、これから訪問する予定の町や村に、二人一組で、先に派遣なさいました。

2 その時、次のような注意をお与えになりました。

「収穫はたくさんあるのに、働く人があまりにも少ないのです。ですから、収穫の責任者である主に、もっと大ぜいの働き手を送ってくださるようお願いなさい。 3 さあ、出かけなさい。 だがこれだけは忘れないように。 あなたがたを派遣するのは、まるで羊を狼の群れの中に送るようなものです。 4 お金も旅行袋も、はき替えのくつも持たないで行きなさい。 途中、道草を食ってははいけません。

5 どんな家に入っても、神の祝福があるようにと祈りなさい。 6 その家に祝福を受ける値打があれば、祝福はとどまるし、そうでなければ、あなたがたのところに返って来ます。

7 一つの村に入ったら、あっちこっちと家々を渡り歩いてはいけません。 同じ家に泊まり、とやかく言わずに、出される物をごちそうになりなさい。 ていねいなもてなしを遠慮することはありません。 働く者が報酬を受けるのは当然です。

8 9 喜んで迎えてくれる町では、次のことを守りなさい。 出された物は何でも食べることと、病人を治し、『神の国が、すぐそこまで来ている』と宣言すること、この二つです。

1 0 しかし、歓迎してくれないような町では、大通りに出て、こう言いなさい。

1 1 『あなたがたは必ず滅びます！ これがそのしるしです。 この町のちりは、足から払い落として行きます。 ただ、神の国がすぐそこまで来ていることは知っておきなさい。』

1 2 よく言っておきましょう。 さばきの日には、あの邪悪な町ソドムのほうが、その町よりよっぽどましなのです。 1 3 ああコラジンよ。 ああベツサイダよ。 どんな恐ろしいことが待ち受けていることか。 わたしがあなたがたにしたような奇蹟を、ツロとシドンでしたら、そこの人々はどうの昔に荒布をまとい、頭に灰をかぶって嘆き悲しみ、罪を悔い改めたことでしょう。 1 4 そうです。 さばきの日には、ツロとシドンのほうが、あなたがたより罰が軽いのです。 1 5 ああカペナウムの住民よ。 あなたがたはどうでしょう。 天に上げられるとうぬぼれている者たちよ。 思い違いもひどすぎます。 あなたがたは地獄に突き落とされるのです！」

16 さらに続けて言われました。

「あなたがたを受け入れる人は、実は、わたしを受け入れているのです。 あなたがたを受け入れない人は、わたしを受け入れないばかりか、わたしを遣わされた神をも受け入れないのです。」

17 その後、七十人の弟子たちは喜び勇んで旅行から帰り、イエスに報告しました。「あなた様のお名前を使うと、悪霊どもでさえ、言うことを聞きましたっ！」

18 「そうです。 わたしは見ました。 まるでいなくまみたいに、サタンが天から落ちるのを。 19 あなたがたには、敵のあらゆる力に打ち勝ち、蛇やさそりを踏みつぶす権威を与えてあります。 だから、あなたがたに危害を加えるものなど、一つもないのです。 20 だが、悪霊どもが言うことを聞くからといって、いい気になってはいけません。 何よりも大切なのは、あなたがたの名前が天国の市民として登録されていることなのです。」

21 この時、イエスの心は、聖霊が与えてくださる喜びでいっぱいになりました。

「父よ。天地の主であるあなたをほめたたえます。 これらのことを頭のよい者や世渡りのうまい者たちには隠して、小さい子供のように神を信じきる者に示してくださいました。ほんとうに、ありがとうございます。 これが、あなたのお心にかなったことでした。 22 すべてのことで、わたしはあなたの代理を務めます。 あなただけが子のほんとうの姿をご存じですし、あなたをほんとうに知っているのは、子のわたしと、あなたを紹介しようと、わたしが選んだ者たちだけなのです。」

23 それから弟子たちのほうを向いて、そつと言われました。

「あなたがたの目はなんと幸せなことでしょうか！ この上なくすばらしいものを見ているのですから。 24 大ぜいの昔の預言者や王たちは、あなたがたの見聞きたことを、見たい、聞きたいと、どれほど願ったかしれません。 残念ながら、その願いはかなえられなかったのです。」

親切なサマリヤ人

25 ある日、法律の専門家がわざわざやって来て、イエスを試そうとしました。「先生。 ちょっとお聞きしたいんですが、天国で永遠に生きるには、何をしたらよろしいでしょうか。」

26 「モーセの法律には、どう書いてありますか。」

27 「心を尽くし、たましいを尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、自分自身を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい、とございますが。」

28 「そう、そのとおりにすればいいのです。 そうすれば、永遠に生きられます。」

29 しかし法律の専門家は、自分がある種の人々を愛していないことを正当化しようと、「ですが……、隣人とはだれのことで？」と聞き返しました。

30 イエスは直接答える代わりに、例をあげて説明なさいました。

「エルサレムからエリコへ旅をしていたユダヤ人が、強盗に襲われました。 強盗どもは、

身ぐるみはぎ取り、あり金全部を奪うと、殴ったり、蹴ったりして半殺しにし、道ばたに放り出してさっさと逃げて行きました。

31 ちょうどそこへ、ユダヤの祭司が通りかかりました。 ふと見ると、旅人が倒れています。 でも、めんどくに巻き込まれたくなかったので、そそくさと道の反対側へ回り、何くわぬ顔で通り過ぎてしまいました。 32 しばらくすると、今度はレビ人〔神殿で奉仕する人〕が通りかかりましたが、彼も、倒れている旅人を横目でちらっとながめただけで、行ってしまいました。

33 ところが、常日頃ユダヤ人に軽べつされていたサマリヤ人が、たまたま通りかかり、旅人を見つけました。 気の毒な有様に、心から同情したサマリヤ人は、 34 急いでそばにひざまずき、傷口に薬をぬり、包帯を巻いて応急手当をしました。 それから、自分のろばに乗せ、宿屋まで運んで、一晩中、看病してあげました。 35 翌日、宿屋の主人に六千六百円渡し、『あの人を介抱してあげてください。 足りない分は、帰りに寄ってお払いしますから』とくれぐれも頼みました。

36 この三人のうちだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。」

37 「もちろん、親切にしてやった人です。」この答えを聞くと、イエスは言われました。「そのとおりです。 あなたも同じようにしなさい。」

38 エルサレムへの旅の途中で、イエスはある村に立ち寄られました。その村のマルタという名の婦人が、喜んで一行を家に迎えました。 39 マルタにはマリヤという妹がおりました。 マリヤは座り込んで、イエスの話にじっと聞き入っていました。

40 一方マルタはというと、てんてこ舞の忙しさです。 「どんなごちそうで、おもてなししようかしら。 あれがいいかしら、それとも……。」気を使うことばかりです。 とうとうイエスのところへ来て、文句を言いました。 「先生。 私が、目が回るほど忙しい思いをしているのに、まあ、どうでしょう。 妹ったら、何もしないで座ってるだけなんですから。 不公平じゃございません？ 少しは手伝いをするように、おっしゃってくださいな。」

41 しかし主は、マルタに言われました。 「マルタさん。 あまり多くのことに気を使いすぎているようですね。 42 でも、どうしても必要なことはただ一つだけです。 妹さんはそれを見つけたのです。 わたしはそれを取り上げようとは思いません。」

――

祈りについて

1 ある時、イエスは外で祈っておられました。 ちょうど祈り終えたところへ一人の弟子が来て、「主よ。 バプテスマのヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください」と願いました。

2 そこでイエスがお教えになった祈りは、こうでした。

「天のお父様。 あなたのきよい御名が、あがめられますように。

あなたの御国がすぐに来ますように。

3 私たちに日々必要な食物をお与えください。

4 私たちの罪をお赦してください。

私たちも、私たちに罪を犯した者を赦します。

私たちを誘惑に会わせないでください。」

5 6 祈りについての教えはまだ続きました。それが、このたとえ話です。

「真夜中に、どうしてもパンを三つ借りなければならなくなつて、友達の家に向けつくとします。戸をどンドンたたき、大声を張り上げて、『迷惑をかけてすまないけど、突然のお客でねえ。あいにく、家には一切れのパンもないんだよ。お願いだから貸してくれないか』と頼みます。7 友達は何と答えるでしょう。中から、『おいおい、かんべんしてくれよ。いま何時だと思ってるんだい。戸じまりもしてしまったし、もうみんな寝てるんだ。何も出してやれないよ』とどなり返すだけかもしれません。

8 だが、これだけは言えます。友達だからというのでは何もしてくれなくても、しつこくたたき続けるなら、その根気に負けて、必要な物をみな出してくれるでしょう。9 祈りも同じです。あきらめずに、求め続けなさい。そうすれば、与えられます。捜し続けなさい。そうすれば、見つかります。戸をたたきなさい。そうすれば、開けてもらえます。10 求める人は与えられ、捜す人は見つけ出し、戸をたたく人は開けてもらえるのです。

11 パンをねだる子供に、石ころをあげる父親がいるのでしょうか。魚が食べたいと言うのに、毒蛇を与える親がいるのでしょうか。12 卵がほしいと言うのに、さそりをあげたりするのでしょうか。もちろん、あげるはずがありません。

13 罪深い人間でさえ、子供には良い物をあげたいと思うのが人情です。そうだとしたら天の父が、求める者に聖霊を下さらないということはありません。」

14 ある時、イエスは悪霊に取りつかれて口がきけない男から、悪霊を追い出してあげました。すると、どうでしょう。男はぺらぺらしゃべりだしたのです。その場に居合わせた人々はすっかり驚いてしまいました。15 しかし中には、意地悪く中傷する人もいました。「へん、別に驚くほどのことじゃないさ。悪霊を追い出すことなんか朝飯前だろうよ。なにしろやつは、悪霊の王ベルゼブル〔サタン〕の力をもらってるんだからな。」16 またほかの人は、ほんとうにメシヤ（救い主）なら、その証拠に、何か不思議な奇蹟を天に起こしてほしいと求めました。

17 そういう一人一人の考えを見抜いて、イエスは言われました。「内乱の絶えない国は滅びます。争ったり、けんかばかりしている家庭も同じことです。18 あなたがたの言うように、ベルゼブルがわたしに悪霊を追い出す力を与えて、自分自身と戦っているとしたら、どうしてサタンの国はやっていけるでしょう。19 それにしても、あなたがたの仲間になつて、悪霊を追い出す人がいるではありませんか。わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出しているというのなら、彼らになつてそうでしょう。あなたがたの考えが正しいかどうか、その人たちに聞いてみたらどうです。20 しかし、もしわたしが神の力

で悪霊を追い出しているとしたら、もう神の国があなたがたのところに來ている証拠です。

21 強く、完全武装したサタンが宮殿を守っているうちは、彼の国は安泰です。 22 しかし、もっと強く、もっと強力な武器を持った者が襲いかかったら、なんなく倒され、武器も持ち物も、一つ残らず取り上げられてしまうでしょう。

23 わたしに味方しない者はみな敵です。 助けてくれない者は、じゃまをする者です。

24 悪霊が人から追い出されると、別の住みかはないかと荒野をあちこちうろつき回ります。ところが、やっぱり適当な場所が見つからないので、もとの所へすくすく戻って行きます。 25 見ると、以前の住みかはすみずみまで掃除が行き届き、きれいになっています。 26 こいつはしめたとばかり、自分より、もっとたちの悪い七つの悪霊を連れて来て、住みついてしまうというわけです。 そうなったら、その人の状態は以前よりずっとみじめになるのです。」

27 こう話しておられると、群衆の中から、一人の婦人が感きわまって叫びました。「あなたのお母様はなんて幸せな方でしょう！ あなたを宿したお腹、あなたの吸った乳房はなんて祝福されているんでしょう！」

28 「そのとおりです。 でも、神のことばを聞いて、そのとおり実行する人のほうが、もっと祝福されているのです。」

29 群衆の数はどんどんふくれ上がる一方です。 イエスは教えを宣べ伝え始められました。

「今の時代は、悪人のはびこる悪い時代です。 人々は、寄ってたかって、メシヤなら、天に何か不思議なしるしを起こしてみせろと、しつこく求めます。 けれども、わたしが見せられる証拠はたった一つ、ヨナの奇蹟だけです。 30 ヨナの経験は、ニネベの人たちの目に、神がヨナを派遣されたことの明らかな証拠と映りました。 わたしも、このヨナと同じような経験をします。 それが、わたしをこの世の人たちのところへお遣わしになったのは神だという、動かぬ証拠となるのです。

31 さばきの日には、シェバの女王が立ち上がり、この時代の人々を名指しで断罪します。 彼女は、ソロモンから知恵のことばを聞くために、あれほど遠い国からはるばる旅して来ることを、いとわなかったからです。 けれども、そのソロモンよりはるかに偉大な者が、ここにいます。 [それなのに、だれ一人見向きもしません。]

32 ニネベの人たちも立ち上がり、この時代の人々に刑罰を宣告します。 彼らはヨナの教えを聞いて、それまでの墮落しきった生活を悔い改めたからです。 けれども、そのヨナより、もっと偉大な者が、ここにいます。 [ところが、耳を傾ける人は一人もいません。]

33 ランプをつけて、わざわざそれを隠す人がいますか？ ランプは部屋を明るく照らすものだから、燭台の上に置かなければ、何にもなりません。 34 目は、心の中まで明るくします。 澄みきった目は、たましいの中まで光をとおします。 肉欲に汚れた目は、光をさえぎり、あなたを暗やみに閉じ込めてしまします。 35 ですから、光がおおい隠

されないように、よく気をつけなさい。 36内面が光に満ちあふれている人は、顔も、明るい光をあてられたように、はつらつと輝くことでしょう。」

偽善者のまちがい

3738話が一段落したところで、あるパリサイ人が、イエスを食事に招待しました。 イエスは誘われるまま彼の家に行き、食卓に着かれました。ところが、その時、なぜか手をお洗いになりません。この儀式は、ユダヤでは必ず行なう習慣でしたので、家の主人は全く意外だという顔つきで、まじまじとイエスをながめました。

39 イエスは、おっしゃいました。「あなたがたパリサイ人は、確かに外側はきれいに洗います。しかし、内側はどうですか？ 汚れたままで、食欲や悪意がいっぱいではありませんか。 40愚かな人たちです。神は外側だけを造られたのですか。もちろん、そんなことはありません。神はちゃんと内側も造られたのです。 41内面のきよさは行ないに表われます。たとえば、どれだけ親切に、貧しい人たちを助けてあげるかによって、はっきりするのです。

42 あなたがたパリサイ人は、実にいまわしいものです。どんなわずかな収入でも、実にきちようめに十分の一をささげていながら、正義と神を愛することとは、きれいさっぱり忘れているのですから。もちろん、十分の一献金は大いにけっこうです。しかし、もっと大切なことをなおざりにしては意味がありません。

43 あなたがたパリサイ人は、実にいまわしいものです。会堂で特別席に座ったり、市場を歩いていて、みんなからていねいなあいさつを受けたりするのが、何よりの楽しみなのですから。 44そんなあなたがたを待ちかまえているのは何でしょう。そう、恐ろしいさばきです。あなたがたはまるで、野原にある、人目につかない墓みたいです。人々は、汚れたものが近くにあるとは気づかず、平気であなたがたのそばを通り過ぎるのです。」

45 そばに立って話を聞いていた法律の専門家が、我慢がならないといったふうに、食ってかかりました。「失礼ですが、おことばがすぎませんか。私たちまで侮辱なさるとは。」

46 イエスは、言われました。「そうではありません。あなたがたにも恐ろしいさばきが待ち受けているのです。とうてい実行できない命令を与えて、人々を押しつぶしておきながら、自分は守ろうともしないのですから。 47あなたがたも、いまわしいものです。昔、預言者を殺した先祖と、全くよく似ています。 48人殺しとちっとも変わりません。ずうずうしくも、先祖が殺した預言者の記念碑を建て、『ご先祖様は正しかった』と認めているのですから。だから、あなたがただって、きっと同じことをしたでしょう。

49 あなたがたのことを、神はこう言っておられます。『わたしは、預言者や使徒たちを派遣します。しかしあなたがたは、彼らを殺したり、迫害したりするのです。』

5051今の時代に生きるあなたがたは、世界が造られてからずっと、すなわち、アベル

が殺された時から、ザカリヤが神殿と祭壇との間で殺された時まで、神の預言者たちを殺し続けてきた責任を問われます。そうです。確かにあなたがたには責任があるのです。

52 法律の専門家たちよ、全くいまわしいものです。人々の目から真理を隠しているのですから。自分が真理を信じないばかりか、ほかの人たちが信じるチャンスさえ奪っているのです。」

5354 これには、パリサイ人や法律の専門家たちも頭にきました。この時からです。彼らがむずかしい質問を矢のようにあびせて、何とかイエスをわなにかけ、逮捕する口実を得ようとし始めたのは。

一二

神を恐れなさい

1 そのうちに、群衆の数はますますふくれ上がり、押し合いへし合いの有様です。イエスはまず、弟子たちに警告なさいました。

「何よりも、パリサイ人の偽善ぶりに注意なさい。ほんとうは悪いことをたくらんでいるのに善人ぶる者たちのやり方にごまかされてはいけません。2 だが、そういう偽善は、いつまでも隠しおおせるものではありません。やがて、パン生地の中のイースト菌のように、ふくれ始め、だれの目にもはっきりします。3 暗やみにまぎれて言ったことがみな、明るみで聞かれ、奥の部屋でささやいたことが、屋上から大声で宣伝されるのです。

4 親しい友よ。体を殺しても、たましいには指一本ふれることができない者たちを恐れてはいけません。5 ほんとうに恐れなければならない相手を教えましょう。殺したあとで、地獄に投げ込む力を持っておられる神を恐れなさい。神こそ、ほんとうに恐れなければならないお方なのです。

6 雀五羽はいったいいくらですか。たったの百円ではありませんか。こんな雀一羽でさえ、神はお見捨てにならないのです。7 それどころか、あなたがたの髪の毛の本数さえご存じなのです。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀より、はるかに価値があるのですから。

8 次のことをはっきりさせておきましょう。この地上で、わたしを友とはっきり認めるなら、メシヤ(救い主)のわたしも、神の使いの前で、確かにわたしの友だと認めます。

9 だが、もし人前で、わたしを知らないと言うなら、わたしも神の使いの前で、こんな人を見覚えもないと言います。10 それでも、わたしに逆らうぐらいなら、何とか赦されます。だが、聖霊に言い逆らう者は絶対に赦されないのです。

11 裁判を受けるために、役人や会堂の権力者たちの前に引き出されても、どう釈明しようかなどと、くよくよ心配してはいけません。12 聖霊が、時にかなったことばを教えてくださいからです。」

13 その時、群衆の中から一人の男が叫びました。「先生一っ！どうぞ兄に、父の遺産を分けてくれるよう言ってください。」

14 「はて、だれがわたしをそんなことの裁判官にしたのですか。」 15 続けてイエスは群衆に言われました。「食欲には、くれぐれも注意なさい。どんな物持ちでも、人のいのちは財産とは無関係なのですから。」

16 そこで、たとえ話を一つなさいました。

「ある金持ちが、良い作物のとれる肥えた畑を持っていました。 17 倉はいっぱいで、収穫物を全部納めきれないほどです。 あれこれ考えたあげく、うまいことを思いつきました。 18 『こうすりゃいいんだ。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建てる。そうすりゃあ、作物を全部納められるさ。』 19 ひとり悦に入った金持ちは、ふんぞり返って、われとわが身に言い聞かせたものです。『もう何も心配はいらないぞ。これから先何年分もの食料がたっぷりあるんだ。のんびり、楽しくやろう。さあ、酒だ、女だ、歌だっ!』

20 しかし神は、こう言われました。『愚か者よ! あなたのいのちは、今夜にもなくなるのです。 そうしたら、ここにある物は、いったいだれのものになるのですか。』

21 いいですか。 この地上でいくらお金をため込んでも、天国に財産を持っていない者はみな、愚か者なのです。」

22 それから、また弟子たちのほうを向き、先をお続けになりました。

「ですから、言っておきましょう。食べ物には十分か、着る物はどうか、といったことでいちいち気を使うのはやめなさい。 23 人のいのちは、食べ物や着る物よりどれだけ価値があるか知れないのです。 24 からすを見なさい。種もまかず、刈り入れもせず、倉を持ってるわけでもありません。それでもゆうゆうと構えていられるのは、神が養ってくださるからです。神にしてみれば、からすなどより、あなたがたのほうが、よっぽど大切なのです。

25 それに、くよくよしたところで、どうにもなりません。心配すれば、寿命が一日でも延びるのですか? 26 こんな小さなことさえできない者が、もっと大きなことを心配したところで何になるでしょう。

27 ゆりの花を見なさい。別に働いているわけでもないし、紡いだり、織ったりするわけでもありません。だが全盛時代のソロモンでさえ、この花ほど着飾ってはいませんでした。 28 今日は咲き誇っていても、明日はしぼんでしまう花でさえ、神はこのように装ってくださるのです。 そうだとしたら、疑い深い人たちよ、どうして、神がちゃんと着物を用意してくださるとは考えないのですか。 29 何を食べようか、何を飲もうかと食事の心配をするのはやめなさい。神が用意してくださるのに、思いわずらってははいけません。 30 人はだれでも毎日のパンのためにあくせく働きます。天の父が、必要なものはすべてご存じだというのに……。 31 神の国を第一に考えるなら、神は必要なものを毎日与えてくださるのです。

32 たとい少数派でも恐れることはありません。神は喜んで、あなたがたを神の国に導いてくださるのです。 33 持ち物を売り払って、貧しい人たちに分けてあげなさい。

そうすれば、天にある財布はふくらんでふくらんで、はち切れそうになること間違いありません。ところが、この財布は破れもしなければ、穴があくこともないから、あなたがたの財産がなくなることは絶対にありません。どろぼうに盗まれることも、虫に食われる心配もありません。34 宝のある所に、心も思いも釘づけになるものだからです。

35 きちんと身じたくを整え、あかりをともしていなさい。36 主人が結婚披露宴から戻るのを待っている人のように。こうしていれば、主人がノックすると同時に、戸を開けて迎えることができます。37 そのように忠実な姿を見られる人は、ほんとうに幸せ者です。主人は、感心な者だと思い、食卓で、反対に自分のほうから給仕してくれるでしょう。38 主人の帰りは夜の九時になるか、真夜中になるか、かいかもわかりません。しかし、いつ帰ってもいいように準備のできている人は、ほんとうに幸せ者です。

39 どろぼうがいつ入るかわかっていれば、家人は、てぐすね引いて待ちかまえています。同様に、主人の帰りが何時ごろか、はっきりわかかっていれば、準備をして待つのはあたりまえです。40 だから、いつでも用意していなさい。メシヤのわたしは、思いがけない時に来るのです。」

41 ペテロが、いぶかしげに尋ねました。「主よ。今の……お話は、私たちにだけ……話されたのですか。それとも……、ここにいるみんなに……？」

42 - 44 イエスは、お答えになりました。

「では、こう言えばわかるでしょうか。主人の留守中、ほかの召使たちの面倒を見る責任を負わされた、忠実で賢い人たちに話しているのです。主人が戻った時、かいかいしく働いているところを見られるなら、ほんとうに幸せです。主人に全財産を任されることになるでしょう。

45 ところが、『ご主人様はまだまだお帰りになるまい』と高をくくり、いい気になって召使たちを打ちたたき、飲んだり食べたりのどんちゃん騒ぎをしていたらどうでしょう。

46 主人は出し抜けに帰って来て、この有様を見ます。不屈き者は、責任ある地位からはずされ、不忠実な者と同じ仕事につけられるのがおちです。47 自分の義務を心得ながら、果たそうとしなかった罰です。

48 だが、自分でも気がつかないうちに悪いことをした人の罰は、軽くてすみます。だれでも多く与えられた者は多く求められ、多く任された者は多く要求されるのです。

49 わたしは、この地上に火を投げ込むために来ました。ああ、この仕事がもうすでに終わっていたらよかったのに。50 恐ろしいバプテスマ（洗礼）が待っています。それが成し遂げられるまで、どんなに苦しい思いをすることでしょう。

51 このわたしが地上に平和を与えるために来た、とでも思っているようですが、とんでもない見当違いです。それどころか、争いと分裂を引き起こすために来たのです。52 今から後、家庭内に分裂が生じるでしょう。五人家族だとすれば、三対二というぐあいに、わたしに賛成するか反対するかで分かれ争うことになるのです。53 父親がわたしのことで決断を下すと、子供は逆らうでしょう。母と娘との意見は一致しなくなり、

本来なら尊重されるしゅうとめの考えも、嫁にはねつけられてしまうでしょう。」

5 4 それから、群衆に話しかけられました。

「あなたがたは天気を予測するのがとても上手です。 西の空に雲がわき上がれば、『やっ、にわか雨が来る』と言い、まさにそのとおりになります。

5 5 また南風が吹けば、『やれやれ、ひどく暑い日になるぞ』とこぼし、それもまた、予測どおりになるのです。 5 6 偽善者たちよ！ これほど上手に空模様を見分けられるのに、目前に迫る危機についての警告には、少しの注意もはらおうとしないのですか！ 5 7 どうして、何が正しいかを見分けようとししないのですか。

5 8 裁判所へ行く途中、あなたを訴える人と出会ったら、裁判官の前に出るまでに、問題を解決するよう努力しなさい。 さもないと、牢獄に入れられてしまいます。 5 9 そうなったら、罰金を最後の一元までも払いきらなければ、出してもらえないのです。」

一三

救われる人は少ないのか

1 そのころ、ガリラヤ出身のユダヤ人が数名、エルサレムの神殿で供え物をしていた時、ピラトに殺害されたというニュースが、イエスに伝えられました。

2 これを聞いたイエスは、逆に、お尋ねになりました。 「あなたがたは、この人たちが、ほかの、どのガリラヤ出身の人よりも罪が深かったから、こんな災難に会ったと思うのですか。 3 それは違います。 あなたがただって、今の悪い行ないをやめて神に立ち返らなければ、同じように滅びるのです。

4 そうそう、シロアムの塔の下敷きになって死んだ人がいました。確か……十八人でした。 彼らのことはどう思いますか。 エルサレムで一番罪深い人たちだったのでしょうか。 5 とんでもありません。 あなたがたも罪を悔い改めないなら、同じように滅びるのです。」

6 そして、次のようなたとえ話をなさいました。

「ある人が、ぶどう園にいちじくの木を植えました。 そして、実がなっているかどうか、何度も何度も、見に行きました。 ところが、期待はいつも裏切られてばかりです。 7 とうとう主人は頭にきて、『こんなろくでもない木は切り倒してしまえっ！』と番人に命じました。 『三年だぞ。 三年も待ったというのに、一つも実がならない。 もうこれ以上、手をかけることはない。 全く場所ふさぎもいいとこだ。』

8 すると番人が、何とか思いとどませようと、なだめにかかりました。 『まあまあ、ご主人様。 もう一年、もう一年だけお待ちください。 特に念入りに、肥料をやってみましょう。 9 それで来年実がなれば、もうけもの。 だめで、もともとです。 それから切り倒しても遅くはありません。』

1 0 ある安息日のこと、イエスは会堂で教えておられました。 1 1 そこに、十八年もの間、腰が曲がったきりで、全然伸ばすことのできない女がいました。

1 2 イエスは女をそばへ呼び、「さあ、あなたの病気は治りましたよ」とおっしゃいまし

た。 13 イエスがさわると、どうでしょう。 たちまち腰はしゃんとなったではありませんか。 女は喜びを抑えきれず、神をあがめ、賛美しました。

14 ところが、会堂のいっさいの責任を持っていた、この地方のユダヤ人の指導者は、それが安息日だというので、もうれつに腹を立て、群衆に怒りをぶちまけました。 「よりによって安息日に病気を治してもらうなど、もってのほかだっ！ 仕事のできる日は、一週間に六日もあるだろうが。 その間に治してもらえ。」

15 「いいえ、あなたがたこそ偽善者です。 安息日に働いていないと言いきれるのですか。 安息日でも、家畜を小屋から出してやり、水を飲ませに連れて行くではありませんか。 16 わたしは今、十八年もの間サタンに束縛されていた、ユダヤ人の女を解放してあげたのです。 たまたまそれが安息日だったからといって、どこがいけないのですか。」

17 このイエスのことばに、敵対する者たちは、ぐうの音も出ず、恥じ入るばかりでした。 群衆はと言うと、イエスの行なったすばらしい奇蹟に大喜びです。

18 そこでイエスは、神の国について教え始められました。

「神の国は何に似ているでしょう。 どういうふうに説明したらいいでしょう。 19 そう、神の国は畑にまいた小さなからしの種みたいです。 やがて、大きな木に生長し、鳥が枝に巣をかけるほどになるのです。 20 21 また神の国は、パン生地の中のイースト菌のようだとも言えます。 目には見えないけれども、少しずつ確実に作用して、パン全体を大きくふくらませるのです。」

22 イエスは町々村々を通り、人々に教えながら、ひたすらエルサレムへと進んで行かれました。

23 ある人がイエスに、「救われる人は少ないのでしょうか」と尋ねました。

イエスはお答えになりました。

24 「天国への戸は狭いのです。 できるかぎりの努力をして、そこから入りなさい。 よく言っておきますが、入ろうとしても、入れない人が大ぜいいるのです。

25 家の主人が戸を開けてからでは遅すぎます。 外に立ち、どんどんたたきながら、『ご主人様一っ！ 開けてくださーい、お願いでございませーす』と、なりふりかまわず頼んでも、中からは『おまえたちなんか、全然知らないね』と、冷たい返事が返ってくるだけです。

26 それでもあきらめず、『何かのおまちがいでは？ 私どもは、あなた様と食事をごいっしょしたこともありますし、大通りで、あなた様から教えていただきました』と食い下がります。

27 けれども主人は、けんもほろろに答えるのです。 『おまえたちなど知らないと言うのが、聞こえんのかっ！ おまえたちのような悪党は、ここには入れないのだ。 とつとつ行ってしまえっ！』

28 アブラハム、イサク、ヤコブ、それに預言者たちもみな神の国に入っているのに、あなたがたはいつまでも外に立ち尽くして、泣きわめき、歯ぎしりするのです。 29

方人々は、あちらからもこちらからも来て、神の国に迎え入れられ、席に着きます。 30 いいですか。このことは肝に銘じておきなさい。今は軽んじられている者が、その時には大いにほめたたえられ、今は重んじられている者が、その時には最も軽んじられるのです。」

31 ちょうどその時、パリサイ人が数人、つかつかと歩み寄り、イエスに忠告しました。「いのちが惜しかったら、ここから出て行きなさい。ヘロデ王があなたをねらっています。」

32 イエスはお答えになりました。「あのきつねにこう言ってやりなさい。今日も、明日も、わたしは悪霊を追い出し、病気を治します。そして三日目に、目的を達成します。 33 そうです。今日も、明日も、その次の日も、わたしは進んで行くのです。神から遣わされた預言者が、エルサレム以外の場所で殺されることは、ありえないからです。

34 ああ、エルサレム、エルサレム。なんという町でしょう。預言者たちを殺し、町を救うために遣わされた人たちを石で打ち殺すとは。めんどりがひなを翼の下にかばうように、何度あなたの子供たちを集めようとしたことでしょう。しかし、あなたがたは、それを拒んだのです。 35 だから今、あなたがたの家は、荒れ果てたまま見捨てられます。はっきり言いましょう。あなたがたが、『主の名によって来られる方、ようこそ』と言うその日まで、わたしの姿を二度と見ることはないのです。」

■

一四

12 ある安息日のこと、イエスはパリサイ派の指導者の家に入られました。パリサイ人たちは、その場にいた水腫の男をどうなさるか、息をこらし、目をさらのようにして、イエスを見つめました。

3 するとイエスは、回りに立っているパリサイ人や法律の専門家たちに、「ところで、安息日に病気を治すことは、おきてにかないますか。それとも……、違反でしょうか」とお尋ねになりました。

4 だれも、押し黙って答えません。イエスは男の手を取り、病気を治してあげると、すぐに家にお帰しになりました。 5 それから、面と向かってパリサイ人たちにお尋ねになりました。「あなたがたのうちで、安息日に絶対働かない者がいますか。息子や牛が穴に落ちたら、安息日だろうが何だろうが、すぐに引き上げてあげるのではありませんか。」

6 今度も、あえて答える者はいませんでした。

自分から名誉を求めるな

7 イエスは、宴会に招かれた人たちがみな、少しでも上席に座ろうとしているのに気づいて、こう忠告なさいました。

8 「結婚披露宴に招かれた時、いつでも上席に座ろうとしてはいけません。あなたよりもっと名誉ある人が招かれていた場合のことを、考えてごらんください。その人が姿を

見せたら、 9 主人は、『あいすみませんが、こちらの方と代わっていただけませんか』と申し出るでしょう。 そうなると、赤恥をかいだ上に、すごすごと末席に着かなければならないのです。

10 招かれた時には、まず末席に座りなさい。 そうすれば、主人が来て、『さあさあ、ご遠慮なさないで、もっと上席にお進みください』と勧めるでしょう。 あなたは居並ぶ客の前で面目を施すことになるのです。 11 自分から名誉を受けようとする人は低くされ、自分から、腰を低くする人は、身に余る名誉を受けるのです。」

12 それから、食事に招いてくれた人にも、念を押されました。 「宴会を開く時には、友人や兄弟、親類、それにお金持ちの知人などを招かないようにしなさい。 彼らはお返しに、あなたを招くからです。 13 むしろ、貧しい人や体の不自由な人、足の不自由な人や盲人などを招待しなさい。 14 幸い、そういう人たちはお返しができないので、やがて神を敬う者たちの復活の日に、神が手ずからその分を報いてくださるでしょう。」

15 この忠告を聞いて、同席していた客の一人が、「神の国で食事をする、それ以上のしあわせ者はいないでしょうな」と言いました。

16 イエスは、遠回しにたとえ話でお答えになりました。

「ある人が大宴会を催すことにして、大ぜいの人に招待状を送りました。 17 準備がすっかり整ったので、召使に、宴会が始まる時間です、とふれ回らせました。 18 ところがなんと、招待客はみな、そろいもそろって口実をつくり、出席を断わり始めたのです。 一人は、ちょうど畑を買ったところなので、これから見に行かなければならないと断わり、 19 ほかの人は、さっき五くびきの牛を買ったので試してみたいと言いわけをしました。 20 またある人は、結婚したばかりで、それどころではないと断りました。

21 召使は戻り、ありのままを主人に報告しました。 主人はかんかんに怒りました。 そして、『よし、それなら、今度は大通りや裏通りに行って、貧しい人や体の不自由な人、足の不自由な人、盲人たちを、片っぱしから招待して来い』と命じました。 22 そうやって客を集めても、会場にはまだ空席が目立ちます。

23 それで主人は言いました。 『えーい。 もうこうなったら、家がいっぱいになるように、街道や垣根の外へ行って、出会った者はだれでもかまわん、無理にでも連れて来い。 24 初めに招待した者たちには、一口だって宴会の食事など出してやるものか。』

25 さて、イエスのあとには、大ぜいの群衆がぞろぞろついて行きました。 イエスはふり返り、彼らに言われました。

26 「だれでも、わたしに従いたければ、父、母、妻、子、兄弟、姉妹以上に、いや自分のいのち以上にわたしを愛しなさい。 27 また、自分の十字架を背負い、わたしに従って来なければ、とてもわたしの弟子にはなれません。

28 けれども、仕事に手をつけるのは、必要な経費を見積もってからにしなさい。 家を建てるのに、資金の見通しが立たないうちに建て始める人がいますか。 29 そんなことをすれば、土台を据えただけで、資金切れとなるかもしれません。 それこそいい物笑

いです。

30 人々は、『よおよお、あのざまを見ろよ。 建てかけで金がなくなったんだとさ』とけなし、あざ笑うでしょう。

31 また、一万の兵を持つ王が、二万の敵軍との交戦を考える時は、必ず参謀会議を開き、はたして勝ち目があるかどうか、あらゆる角度から検討するでしょう。

32 どうしても勝ち目がないとわかれば、敵軍がまだ遠くにいるうちに、使者を送り、何としても講話条約を結ばなくてはなりません。 33 だれでも、まず座って、自分の持ち物を数え上げ、それを全部わたしのために捨てるのでなければ、わたしの弟子にはなれません。

34 塩が塩けをなくしたら、何の役に立ちますか。 35 味のない塩など、肥やしにもなりません。 捨てるほかはないのです。 聞く耳のある人は、よく聞きなさい。」

一五

失われた者が見つかる喜び

1 イエスの教えを聞きに来る人たちの中には、あくどい取り立てをする取税人や札つきの悪党が、かなりいました。 2 ユダヤ教の指導者や法律の専門家は、イエスがそういう問題の多い人々につきあい、時には食事までいっしょにするのを見て、不平をもらしました。 3 そこでイエスは、次のようなたとえ話をなさいました。

4 「羊を百匹持っているとします。 そのうちの一匹が迷い出て、荒野で行方がわからなくなったらどうしますか。 ほかの九十九匹は放っておいて、いなくなった一匹が見つかるまで捜し歩くでしょう。 5 そして、見つかったら、大喜びで羊を肩にかつぎ上げ、 6 家に帰ると、さっそく友達や近所の人たちを呼び集めて、いっしょに喜んでもらうでしょう。

7 それと同じことです。 迷い出た一人の罪人が神のもとに帰った時は、少しも迷ったことのない九十九人を合わせたよりも大きな喜びが、天にあふれるのです。

8 もう一度、別のたとえで話してみましょう。 女の人が銀貨を十枚持っていました。 ところが、どうしたことか一枚なくしてしまったのです。 この女は、ランプをつけ、家の中をすみからすみまで掃除して、その一枚を見つけるまで、必死で捜し回るでしょう。

9 そして、見つけ出したら、一人ではもの足りず、友達や近所の人を呼び、いっしょに喜んでもらうでしょう。 10 同じように、一人の罪人が罪を悔いて神のもとに帰った時、神の使いたちはたいへんな喜びにわくのです。」

11 イエスはもっとよく説明しようと、また別のたとえ話もなさいました。

「ある人に息子が二人いました。 12 ある日、弟のほうが出し抜けに、『お父さん。 あなたが亡くなってからじゃなく、今すぐ財産の分け前がほしいんだけどな。 だめですか』と言いだしたのです。 それで父親は、二人にそれぞれ財産を分けてやりました。

13 もらう物をもらうと、何日もたたないうちに、弟は荷物をまとめ、そそくさと遠い国に旅立ちました。 そこで放蕩に明け暮れ、全財産を使い果たしてしまいました。 1

4 一文なしになった時、その国に大ききんが起こり、食べる物にも事欠く有様でした。 15
5 それで、その地方のある農夫に頼み込み、畑で豚を飼う仕事をもらいました。 16
6 あまりのひもじさに、豚のえさのいなご豆さえ食べたいほどでしたが、だれも食べる物をくれません。

17 こんな毎を送るうち、彼もやっと目が覚めました。『あーあ、家なら雇い人に
だって、あり余るほど食べ物があるだろうな……。なのにおれときたら、なんてみじめ
なんだ。こんなところで飢え死にしかけてる。 18
18 そうだ。家に帰ろう。帰って、お父さんに頼もう。「お父さん。すみませんでした。神様にも、お父さんにも、罪
を犯してしまっ……。 19
19 もう息子と呼ばれる資格はありません。どうか、雇い人として使ってください。』

20 決心がつくと、彼は父親のもとに帰って行きました。ところが、家までは、まだ
遠く離れていたというのに、父親は息子の姿を、いち早く見つけたのです。『あれが帰
って来た。かわいそうに、あんな、みすばらしいなりで……。』こう思うと、じっと待つ
てなどいられません。走り寄ってぎゅっと抱きしめ、口づけしました。

21 『お父さん。ごめんなさいっ！ぼくは神様にも、お父さんにも、取り返しのつ
かないことをしてかしました。もう息子と呼ばれる資格はありません……。』

22 ところが父親は、使用人たちにこう言いつけたのです。『さあさあ、何をぼやぼ
やしている。一番よい服を出して、これに着せてやれ！宝石のついた指輪も、くつも
だ。 23
23 あっ、それから、肥えた子牛を料理して、盛大な祝宴の用意も忘れんようにな。
24
24 死んだものとあきらめていた息子が生き返り、行方の知れなかった息子が帰って来た
のだから。』こうして、祝宴が始まりました。

25 ところで、兄のほうはどうでしょう。その日も畑で働いていました。家に戻っ
てみると、何やら楽しげな踊りの音楽が聞こえます。 26
26 いったい何事かと、使用人の一人に尋ねると、 27
27 『弟さんが帰られたのでございますよ。だんな様は、たいへん
なお喜びで、肥えた子牛を料理し、ご無事を祝う宴会を開いておられるのです』と言
うではありませんか。

28 事情を聞くと、無性に腹が立ってきました。中に入るのさえしゃくにさわりま
す。父親が出て来て、いろいろとなだめてみました。 29
29 それでも気持ちはおさまりません。『私はこれまで、お父さんのために汗水流して働いてきたんですよ。言いつけにだ
って、ただの一度もそむいたことはありません。なのに、友達と宴会を開けと言っ
て、子やぎ一匹くれたことがありますか。 30
30 ところが、女にうつつを抜かし、あなたのお金を使
い果たした弟のやつには、最上の子牛を料理して、お祭り騒ぎをするんですか』と、食
ってかかりました。

31 すると父親は言いました。『いいか、よく聞きなさい。おまえはいつだ
って、私のそばにいたじゃないか。私のものは全部おまえのものだ。 32
32 だがな、考えてもみな。あれはおまえの弟なんだよ。死んだと思っ
てあきらめていたのに、無事に帰っ

て来たんじゃないか。 いなくなっていたのが見つかったんだから、お祝いするのはあたりまえじゃないか。』

一六

神とお金の両方に仕えることはできない

1 さてイエスは、弟子たちにも話をなさいました。

「ある金持ちが計理士を雇いました。ところが、この計理士はずる賢い男で数字をごまかしている、といううわさを聞きました。

2 さっそく金持ちは彼を呼びつけ、きつく言い渡しました。『帳簿をごまかしているそうだな。もっぱらのうわさだぞ。なんてことだ。こうなった以上、やめてもらおう。報告書を整理しておくんだな。』

3 計理士は、はたと考え込みました。『さて、どうしたものか。首になるのは時間の問題だ。日雇いをやるほどの力もないし、かといって、まさかこじきをするってわけにも……、だめだ、とてもプライドが許さない……。4 待てよ。そうだ、こうしよう。これなら、首になっても大丈夫。みんなが面倒を見てくれることまちがいなしだ。』

5 どうしたかと言うと、彼は雇い主からお金を借りている人を一人一人呼び出して、話し合ったのです。まず、最初の人とはこんなぐあいに。『主人にいくら借りがありますか。』6『オリーブ油三千五百リットルです。』『そうですか。えーと、これが証文ですね。さあ破って、破って。代わりに、その半分の借りをという証文を書くんですよ。』

7 次の人にも同じように。『あなたの借りはどのくらいですか。』『小麦三十トンです。』『いいでしょう。これが証文……。じゃあ、新しく二十五トンの証文を書いてください。これと取り替えてあげるから。』

8 この抜け目のなさには、さすがの金持ちも舌を巻き、うまいやり方だ、とほめないわけには、いきませんでした。確かに、この世の人々のほうが、神を信じる者たちよりずっと抜け目がないのです。9 不正の富を利用してでも、親しい友達をつくりなさい。そうしておけば、富がなくなった時、親切にしてやった人たちが、永遠の天の住まいに迎え入れてくれるでしょう。10 小さなことに忠実な人は、大きなことにも忠実です。小さなことに不忠実な人は、大きな責任を与えられても、忠実に果たすことはできません。

11 この世の富も任せられない人に、どうして、天にある、ほんとうの富を任せられるでしょう。12 他人の富に忠実でなかったら、あなたがたは自分の富さえ、任せてもらえないのです。

13 だれも、二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方に忠実であるか、あるいは、一方を重んじて他方は軽んじるようになるからです。神とお金の両方に仕えることはできないのです。」

14 何よりもお金に目のないパリサイ人たちは、当然のことながら、この話を聞いて、イエスをあざけりました。

15 そんな彼らに、イエスは、おっしゃいました。「あなたがたは、人前では、いか

にも上品でうやうやしい態度をとっています。しかし神は、あなたがたの悪い心をお見通しです。いくら人の目をごまかし、賞賛を受けても、神には憎まれるのです。16バプテスマのヨハネが現われて教えを説き始めるまでは、モーセの律法と預言者たちのことば（旧約聖書）が、あなたがたの指針でした。しかしヨハネ以後は、神の国のすばらしい知らせが宣べ伝えられ、大ぜいの人がむりにでも入ろうと、押し合いへし合いしています。17だからといって、おきてのどんな細かい部分も、効力を失ったというわけではありません。たとい天地が滅びようと、神のおきてはびくともしないのです。

18 だから、妻を離縁してほかの女と結婚する者は、姦通罪を犯すことになり、離縁された女と結婚する者も同罪なのです。」

19 イエスは話を続けられました。

「金持ちがいました。きらびやかな服を着、ぜいたくざんまいの暮らしでした。20ある日のこと、その家の門前に、ひどい病気にかかったラザロというこじきが横になっていました。21金持ちの家の食べ残りでもいい、とにかく食べ物にありつきたいと思っていたのです。かわいそうに、犬までが、おできだらけのラザロの体をなめ回します。22やがて、このこじきは死にました。御使いたちに連れられて行ったのは、生前神を信じ、正しい生活を送った人たちのところでした。そこで、アブラハムといっしょにいることになったのです。そのうち、金持ちも死んで葬られましたが、23彼のたましいは地獄に落ちました。苦しみあえぎながら、ふと目を上げると、はるかかなたに、アブラハムといっしょにいるラザロの姿が見えます。

24 金持ちはあらんかぎりの声を張り上げました。『アブラハム様一っ！ どうぞお助けを。お、お願いでございまーす。ラザロをよこし、水に浸した指先で、ほんのちよっとでも舌を冷やさせてください。この炎の中では、もう苦しくて、苦しくてたまりません。』

25 しかし、アブラハムは答えました。『思い出してもみろ。おまえは生きている間、ほしい物はなんでも手に入れ、思うままの生活をした。だがラザロはどうだ。全くの無一物だった。それで今は反対に、ラザロは慰められ、おまえは苦しむのだ。26それに、そちらへ行こうにも、間に大きな溝があつて、とても行き来はできない。』

27 『ああ、アブラハム様。それならせめて、ラザロを私の父の家にやってください。

28まだ五人の兄弟がいるのです。彼らだけは、こんな目に会わせたくありません。どうぞ、この恐ろしい苦しみの場所があることを、教えてやってください。』

29 『それは聖書が何度も警告してきたことではないかね。その気があれば、いつでも読めるはずだよ。』

30 金持ちはあきらめません。『でも、アブラハム様。彼は、聖書を読みたがらないのでございます。ですが、もしだれかが死人の中から遣わされて行ったら、彼らも罪深い生活から立ち直れるでしょう。』

31 アブラハムはきっぱり言いきりました。『モーセと預言者たちのことばに耳を貸

さないのなら、だれかが生き返って話したところで同じことだ。 彼らは聞こうとしないだろう。』

一七

1 ある日のこと、イエスは弟子たちにお話しになりました。

「罪を犯させようとする誘惑は、いつもつきまとっています。 しかし誘惑する本人は、何ともいまわしいものです。 2 これら小さい者の心を傷つける者は、首に大きな石をくくりつけられて、海に投げ込まれるほうが、よっぽどましです。

3 いいですか。 友達が罪を犯したら、注意してあげなさい。 そして悔い改めたら、赦してあげなさい。 4 あなたに対して日に七度罪を犯しても、そのたびに『悪かった。赦してくれ』とあやまるなら、赦してあげなさい。」

からし種ほどの信仰

5 ある日、使徒たちが主に、「もっと信仰が強くなりたいんですが、どうしたらいいでしょう」と尋ねました。

6 イエスのお答えはこうでした。

「ほら、あそこに桑の木があるでしょう。 小さな、からしの種ほどの信仰でもあれば、あの木を根こそぎ海の中へ投げ込むことぐらい、どうさもないことです。 そう命令しさえすれば、たちまちそのとおりになります。 7 - 9 ところで話は変わりますが、畑を耕すか、羊の番をするかして一日中働いた奴隷が、帰って来るなりどっかと腰をおろし、食事を始めるなどということがあるでしょうか。 まず主人の食事のしたくをし、給仕をすませ、それからようやく、自分の食事をするのが普通です。 しかも、そうしたからといって取り立てて感謝されるわけでもありません。 当然のことをしたと思われるだけです。 10 あなたがたがわたしに従って来るにしても同じことで、特別ほめられることはありません。 義務を果たしているにすぎないのですから。」

11 一行はエルサレムを目指して進み、途中サマリヤとガリラヤの境を通りました。 12 ある村に入ると、十人のらい病人がずっと向こうのほうから、 13 大声で、「イエス様一つ！ どうぞお助けを！」と叫びました。

14 イエスはそちらに目をやり、「さあ、祭司のところへ行き、らい病が治ったことを見せてきなさい」と言われました。 そのとおりに出かけて行くと、途中で、らい病はきれいに治りました。

15 16 その中の一人が、イエスのところに引き返し、足もとにひれ伏して、「ありがとうございます。 おっしゃるとおり、すっかりよくなりました。 神様に栄光がありますように」と言いました。 実はこの人は、ユダヤ人から軽べつされていたサマリヤ人でした。

17 「はて、十人全部を治したはずだが……、ほかの九人はどうしたのか。 18 神を賛美するために帰って来たのが、この外国人だけとは……。」

19 こうおっしゃってから、イエスはその男に、「さあ、立ってお帰りなさい。 あなたの信仰があなたを治したのです」と言われました。

準備をして待て

20 ある日、パリサイ人たちがイエスに尋ねました。「神の国はいったい、いつ来るのですか。」

「神の国は、目に見える形では来ません。 21『ここに来た』とか、『あそこに来た』とか言えないのです。はっきり言いましょう。神の国は、あなたがたの中にあるのです。」

22 そのあとで、イエスは神の国についてもう一度、弟子たちにお話しになりました。

「まもなく、一日でいいからいっしょにいたいと願っても、わたしはもうここにはいない、という日が来ます。 23その時にはまた、『イエス様は帰って来られた。ここにおられるぞ』とか、『いや、あそこだ』というふうに、情報が乱れ飛ぶでしょう。そんなうわさを信じたり、彼らのしり馬に乗ってあとを追いかけてたりしてはいけません。 24わたしが帰って来る時には、はっきりわかるからです。ちょうど、いなづまが空の端から端までひらめき渡るように、一目瞭然なのです。 25しかしその前に、わたしはひどい苦しみを受け、この国の人々全部から、つまはじきにされなければなりません。

26 わたしが帰って来る時、人々は、かつてのノアの時代のように、神のことなどには、まるで無関心でしょう。 27ノアが箱舟に入り、洪水が押し寄せ、何もかも滅ぼし尽くすまで、人々は飲んだり、食べたり、結婚したり、いつもと変わらない生活をしていました。

28 また、ロトの時代の人々とも、比べることができるでしょう。 当時も、人々はいつもと同じように、食べたり飲んだり、売ったり買ったり、植えたり建てたりの生活をしていましたが、 29ロトがソドムの町を抜け出した日に、火と硫黄が天から雨あられと降り注ぎ、一人残らず滅ぼされてしまったのです。 30わたしが再び来る時も同じです。その瞬間まで、『すべてがいつものとおり』なのです。

31 その日、外出中の者は、荷物を取りに家へ戻ってはいけません。野良仕事をしている者も、家に帰ってはいけません。 32ロトの妻がどんな目に会ったか、思い出さない。 33だれでも、いのちにしがみつく者は失い、いのちを投げ出す者が、かえって自分のものにできるのです。 34よく覚えておきましょう。 その夜二人の男が一つの部屋に寝ていると、一人は天に上げられ、一人は残されます。 35 36家事をしている二人の婦人のうち、一人は天に上げられ、一人は残されます。 また、畑でいっしょに野良仕事をしている二人の男も、同様です。」

37 「主よ。どこでそんなことが起こるのですか。」

「死体のあるところに、はげたかも集まるのです。」

一八

祈り続けなさい

1 ある日、イエスは弟子たちに、いつでも祈り、また答えられるまで祈り続けることを教えようと、一つのたとえ話をなさいました。

2 「ある町に、少しも神を恐れず、人を人とも思わない裁判官がいました。 3同じ町

に住む一人の未亡人が、たびたび、この裁判官のところへ押しかけ、『訴えられて困っています。どうかお力添えを』と願い出ました。 4 5 裁判官はしばらくの間は、相手にもしていませんでしたが、あまりのしつこさに、とうとう我慢できなくなりました。彼は心の中でこう考えました。『わしは神様だろうが人間様だろうが、ちっともこわくなんかない。だが、あの女ときたひにや、うるさくてかなわん。しかたがない。裁判をしてやることにしよう。そうすりゃあ、もう、わずらわしい思いをしなくてすむだろう。』

6 主は続けて言われました。

「このように、悪徳裁判官でさえ音を上げてしまうのなら、 7 まして神は、昼も夜もひたすら訴え続ける信者たちを、必ず正しく取り扱ってくださるはずでしょう。そうは思いませんか。 8 神はすぐに答えてくださるのです。ただ問題は、メシヤ（救い主）のわたしが帰って来る時、いったいどれだけの人が信仰を持って祈り続けているかです。」

9 それから、自分の美德を鼻にかけ、他人を軽べつする人たちに、こんな話をなさいました。

10 「二人の男が祈るために神殿へ行きました。一人は自尊心が強く、あくまでも自分を正しいと主張するパリサイ人、もう一人は、人のお金をだまし取る取税人でした。 11 高慢なパリサイ人は、胸を張って祈りました。『神様。ありがとうございます。私はほかの連中、特に、ここにいる取税人のような罪人ではありません。人をだましたこともなければ、姦淫したこともありません。 12 一週間に二回は必ず断食し、全収入の十分の一もきちんと献金しています。』

13 一方、取税人は遠く離れて立ち、目を伏せ、悲しみのあまり胸をたたきながら、『神様。罪人の私めを、あわれんでください』と叫びました。 14 よく言っておきますが、罪を赦されて帰ったのは、パリサイ人ではなく、この罪人のほうです。高慢な者は卑しい者とされ、謙そんな者には大きな名誉が与えられるからです。」

15 ある日のことです。イエスにさわって祝福していただこうと、人々が子供たちを連れて来ました。ところが弟子たちは、じゃまだとばかり、追い返そうとしました。

16 するとイエスは、子供たちを呼び寄せ、弟子たちに言われました。「いいから、子供たちを自由に来させなさい。追い払うなんてとんでもありません。 17 神の国は、この子供たちのように、素直に信じる心を持っている人たちのものなのです。」

天国に入るには？

18 ある時、一人のユダヤ教の指導者がイエスに尋ねました。「先生。あなた様は尊いお方です。そこでお聞きしたいのですが、天国に入るには、どうすればよろしいのでしょうか。」

19 「わたしのことを『尊い』と言いましたね。それがどういうことか、わかっているのですか。『尊い』方は、ほかのだれでもない、ただ神お一人だけです。

20 それはそれとして、質問に答えましょう。戒めは知っていますね。姦淫してはいけない、殺してはいけない、盗んではいけない、うそをついてはいけない、父や母を敬

え、とあります。」

21 「子供のころから、戒めはきちんと守ってきました。」

22 「そうですか、でも一つだけ欠けたところがあります。 さあ、財産を全部売り払って、その代金を貧しい人たちに分けてあげなさい。天に宝をたくわえるのです。それから、わたしについて来なさい。」

23 このイエスのことばに、その人はがっくり肩を落として立ち去りました。 たいへんな金持ちだったからです。

24 そのうしろ姿を食い入るように見つめていたイエスは、弟子たちに言われました。「金持ちが神の国に入るのは、なんとむずかしいことでしょう。 25 それよりは、らくだが針の穴を通るほうが、よっぽどやさしいのです。」

26 これには弟子たちも驚き、思わず叫びました。「そんなにむずかしいのですかっ！ だとしたら、救われる人などいるのでしょうか。」

27 「人間にはできません。 だが、神にはできるのです。」

28 すかさずペテロが口をはさみました。「私たちは家も捨てて、お従いしました。」

29 「そうですね。 あなたがたのように、神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子供を捨てた者はだれでも、 30 この世ではその何倍もの報いを受け、やがて来る世では、永遠のいのちまでいただけるのです。」

31 ここで、十二人の弟子たちをそばに呼び寄せ、特に言って聞かせられました。「あなたがたも知っているとおおり、わたしたちはエルサレムへ行くところです。 そこで、昔の預言者たちのことばどおりのことが、わたしの身に起こります。 32 わたしは外国人の手に渡され、あざけられ、侮辱され、つばきをかけられ、 33 むちで打たれ、ついには殺されますが、三日目に復活するのです。」

34 ところが弟子たちには、イエスの言われることが、さっぱりわかりません。「先生はきっと、なぞをかけておられるのだろう」としか考えられませんでした。

35 ほどなくエリコという所で、盲人が一人、道ばたに座り込み、通りがかりの人に物ごいをしていました。 36 大ぜいの人があわただしく通り過ぎ、あたりの様子も、何だかざわついてきました。 いったいどうしたのでしょうか。 不思議に思った盲人は、そばにいた人をつかまえて尋ねました。 37 すると、ナザレのイエスのお通りだと言うではありませんか。 38 盲人は、この時とばかり大声で叫びだしました。「イエス様一っ！ ダビデ王の子よ！ どうぞお助けを！」

39 イエスの前を進んで来た人たちが、黙らせようとしたましたが、そうすればするほど、ますます大声でわめき立てます。「ダビデ王の子よ！ お助けを！」

40 その時、イエスはそばまで来て、つと足を止め、「あの人を連れて来なさい」と言われました。 41 それから、彼にお尋ねになりました。「どうしてほしいのですか。」
「見えるようになりたいんです！」

42 「わかりました。 さあ、見えるようになりなさい。 あなたの信仰があなたを治

したのです。」

4 3 その瞬間、彼の目は見えるようになりました。そして、心から神をほめたたえながら、イエスについて行きました。この出来事を見ていた人たちもみな、神を賛美しました。

一九

ザアカイの救い

1 2 イエスはエリコの町を通り過ぎるところでした。この町には、ローマの税金取り立ての仕事をしているザアカイという男がいました。取税人の中でもとりわけ権力をふるっていた、たいへんな金持ちでした。3 さて、このザアカイも、ひと目イエスを見ようと思いましたが、なにぶん背が低いので、いくら背伸びをしても、人垣のうしろからは何も見えません。4 そこで、ずっと先のほうに走って行き、道ばたにあったいちじく桑の木によじ登り、見下ろしていました。

5 やがて、そこへ差しかかったイエスは、ザアカイを見上げると、彼の名を呼んで、「ザアカイさん。早く降りてきなさい。今晚はあなたの家に泊めてもらうつもりでいますから」と言われました。

6 ザアカイは急いで降りると、大喜びでイエスを家に迎えました。

7 しかし、これを見ていた人々の心中は、おだやかではありません。「なにも、あの札つきの悪党の家の客にならなくても……」と、ぶつぶつ文句を言いました。

8 一方、ザアカイは主の前で、こう告白したのです。「先生。今からは、財産の半分を貧しい人たちに分けてあげます。税金を取り過ぎた人たちには、四倍にして払い戻します。」

9 1 0 イエスは言われました。「その告白こそ、今日この家に救いが来たことの動かぬ証拠です。この人も迷い出たアブラハムの子供の一人なのだから。メシヤ（救い主）のわたしは、実にこの人のような者を捜し出して救うために来たのです。」

1 1 イエスがはいよいよエルサレムに近づくのを見て、今すぐにでも神の国が実現するのではないかと早合点した人々がいました。そのまちがい正そうと、イエスはたとえ話を一つなさいました。

1 2 「ある所に身分の高い人が住んでいました。やがてその地方の王に任命されるため、遠くの首都に出かけることになりました。1 3 そこで、出発前に十人の家来を呼び寄せ、留守中に事業を始めるようにと、めいめいに六十万円ずつ渡しました。1 4 ところがその住民の中には、その人が王になるのを快く思わない人々があり、反対の声明文を首都に送りつけたのです。

1 5 さて、その人は王位を受けて帰ると、さっそく、資金を預けた家来たちを呼び集め、経過報告をさせました。

1 6 最初の家来は、元金の十倍というすばらしい利益をあげたと報告しました。

1 7 王は非常に喜び、『でかしたぞ！ 感心なやつだ。少しばかりのものにも忠実に励

んでくれた。よし、ほうびに、十の町を治めさせよう』と言いました。

18 次の家来が進み出て、元金の五倍の利益をあげたと報告しました。

19 『よくやった！ おまえには五つの町を治めてもらおう。』王は上きげんで言いました。

20 ところが、三番目の家来は、預かった資金をそっくりそのまま差し出すではありませんか。『私はお金を大切に保管しておきました。21 せっかくもうけても、横取りされてしまうのではつまりません。あなた様はほんとうにひどい方で、ご自分のものではないものまで取り立て、他人の作った穀物さえ、取り上げるのですから。』

22 王は激しく怒ってどなりつけました。『なんて悪いやつだっ！ わしが、そんなにひどい人間だと言うのか。よし、それなら思い知らせてやろう。それほどよくわかっていたのなら、23 なぜ、銀行に預けておかなかったのか。そうすりゃあ、利息ぐらいついたのに。』

24 王は側近の者たちに、『さあ、こいつからお金を取り上げ、一番多くもうけた者にやっしまえ』と命じました。

25 『ですが王様。あの者はもうすでに、たくさん持っていますが。』

26 それでも、王は言いました。『そのとおり。だがな、いつでもそうだが、持っている者はさらに多く与えられ、持っていない者はそのわずかな物さえ失ってしまうのだ。27 それから、謀反を起こしたやつらのことだが、すぐにここへ引っ立てろ。わしの目の前で死刑にしてやるがいい。』

エルサレムを目前にして

28 お話を終えると、イエスは先頭に立ち、エルサレムに向かわれました。29 一行がオリーブ山のふもとのベテパゲとベタニヤの村に近づいた時、イエスは、先に弟子を二人、使いに出し、こう指示なさいました。30 「さあ、あの村へ行って、道ばたにつないである、ろばの子を捜しなさい。まだだれも乗ったことのないろばの子です。見つけたら、綱をほどいて、連れて来るのです。31 もしだれかにとがめられたら、『主がお入用なのです』とだけ答えなさい。」

32 二人は、言われたとおり、ろばの子を見つけました。33 さっそく綱をほどきにかかると、持ち主が来て、「何をしてるんだ。おれたちのろばの子をどうしようってんだ」と聞きただしました。

34 弟子たちは、「主がお入用なのです」と答え、35 ろばの子を連れて来ました。そして、その背中に自分たちの上着を敷き、イエスをお乗せしました。

36 37 イエスがろばの子に乗って進んで行かれると、大ぜいの人々が次々と上着を脱ぎ、道に敷き並べました。この一団がオリーブ山のふもとに差しかった時、群衆の中から大きな声が上がりました。イエスが行なわれたすばらしい奇蹟のことで、神を賛美し始めたのです。

38 「神様がお立てくださったわれらの王に

祝福があるように。

天よ、喜べ。

いと高き天で、神様に栄光があるように！」

39 群衆の中にいたパリサイ人たちは、これが気に入りません。「先生。 あんなことを言ってます。 しかってください。」

40 ところが、イエスはお答えになりました。「それもいいでしょう。 だが、この人たちが黙っても、道ばたの石が叫びだします。」

41 さらにエルサレムに近づいた時、イエスは都をごらんになり、はらはらと涙をこぼされました。 42 「永遠の平和が、すぐ手の届くところにあつたのに、あなたはそれをはねつけてしまいました。 もう遅すぎます。 43 敵が、城壁に土塁を築き、あなたを包囲し、攻め寄せ、 44 子供たちもろとも、地面にたたきつけるでしょう。 一つの石もほかの石の上に残らないほど、完全に破壊されるのです。 せっかく神が機会を与えてくださったのに、それをはねつけた罰です。」

神殿での出来事

45 このあと、イエスは宮に入り、境内で商売していた者たちを追い出しにかかられました。 そして、強い調子で言われました。 46 「聖書（旧約）に『わたしの神殿は祈りの場所と呼ばれる』と、はっきり書いてあるではありませんか。 それなのに、あなたがたは強盗の巣にしてしまったのです！」

47 その日からイエスは、毎日、神殿で教え始められました。 一方、祭司長や他の宗教的指導者、それに町の実力者たちは、イエスを殺すうまい方法はないかと虎視眈々機会をねらっていましたが、 48 全く手出しができませんでした。 民衆がイエスをすっかり英雄視し、語られるひと言ひと言に、熱心に聞き入っていたからです。

・

二〇

1 ある日、イエスが宮の中で人々を教え、神のすばらしい知らせを宣べ伝えておられるところへ、祭司長や、他の宗教的指導者たちが、イエスと対決しようと、やって来ました。

2 彼らは、何の権威で商人たちを宮から追い出したのか、と詰め寄りました。

3 イエスはお答えになりました。「答える前に、まず、わたしから質問しましょう。

4 バプテスマのヨハネは神に遣わされて来たのですか。 それとも、ただ自分の考えを主張しただけですか。」

5 彼らは集まって、ひそひそ相談しました。「ヨハネの語ったことが神様からの教えだと答えてみろ、逆にわなにかけられてしまうぞ。 6 かといってなあ……、神様からじゃないと答えるわけにもいくまい。そんなことをしたら、今度は、群衆が襲いかかって来るだろう。 やつらはみな、ヨハネを預言者だと信じ込んでいるんだから。」 7 とうとう、「わかりません」と答えました。

8 イエスは、「そうですか。 では、わたしも答えません」とおっしゃいました。

9 それから、また人々のほうを向き、次のようなたとえ話をなさいました。

「ある人がぶどう園を造り、それを数人の農夫に貸して外国へ行き、長いこと、そこに住んでいました。 10 やがて、収穫の季節になりました。 主人は代理の者をやり、分け前を受け取ろうとしました。ところが、農夫たちはどうしたでしょう。 代理人を袋だたきにし、手ぶらで追い返したのです。 11 また別の代理人を送りましたが、彼もまた袋だたきにされ、さんざん侮辱されたあげく、手ぶらで追い返されました。 12 三人目の代理人も同じこと、傷を負わされ、ほうほうのていで逃げ帰りました。

13 考えあぐねた主人は、一人つぶやきました。『いったい、どうしたものか……。 そうだ！ 息子をやろう。 かわいいやつだ。 息子なら、きっと農夫たちも一目おくに違いない。』

14 ところが、当の農夫たちは、主人の息子が来るのを見て、『おい、絶好のチャンスだぞ。 ありゃあ、跡取り息子だ。 さあ、あいつを殺っちまおうぜ。 そうすりゃあ、ぶどう園はおれたちのものよ』とささやき合いました。

15 そのことばどおり、農夫たちは息子をぶどう園の外に引きずり出し、殺してしまいました。

さて、主人はどうするでしょう。 16 今度は自分で乗り込み、農夫たちを皆殺しにし、ぶどう園はほかの人たちに貸すに決まっています。」

この話を聞いていた人たちはみな、「そんな恐ろしいことがあるなんて、とても考えられません」と答えました。

17 しかしイエスは、人々の顔をぐると見回しながら、おっしゃいました。「では、聖書（旧約）に、

『建築士たちの捨てた石が、
最も重要な土台石となった』

と書いてあるのは、どういう意味ですか。」 18 さらにことばをお続けになり、「この石につまずく者はみな、打ち砕かれます。 反対に、この石が落ちてくれば、だれもかれも、こっぴみじんです」と言われました。

19 祭司长や宗教的指導者たちは、この話を聞いて、その悪い農夫とは、実は自分たちのことなのだと気づき、すぐにもイエスを捕らえたいと思いました。 しかし群衆の暴動がこわくて、どうにも手出しができません。 20 そこでローマ総督に報告できる逮捕の口実をつかもうと、何とかして不利になることを言わせようと、やつきになりました。 こうして機会をねらっていた彼らは、正直者のふりをしたスパイどもをイエスのもとにやり、 21 こう質問させました。「先生。 私どもは、あなた様がどんなに正直な教師か、よく承知しております。 あなた様はいつも真理を語り、他人の思わくなど気にせず、ひたすら、神の道を教えておられます。 22 それで、ぜひ、お教えいただきたいのですが…、ローマ政府に税金を納めるのは正しいことでしょうか。 それとも……。」

23 彼らの計略は見えすいています。 イエスは言われました。 24 「銀貨を見せな

さい。ここに刻まれているのは、だれの肖像、だれの名前ですか。」

「カイザル（ローマ皇帝）のもので。」

25 「それなら、皇帝のものは、皇帝に返せばいいでしょう。しかし、神のものはみな、神に返さなければなりません。」

26 公衆の面前でイエスのことばじりをとらえようとするたくらみは、みごと失敗に終わりました。彼らは、イエスの答えに恐れ入り、返すことばもありません。

27 次にやって来たのは、死んでしまえばそれまでで、復活などありえないと主張していた、サドカイ人たち（神殿を牛耳っていた祭司階級。ユダヤ教の主流派）でした。

28 「モーセの法律には、もしある人が子供のないまま死んだら、弟は残された未亡人と結婚しなければならず、二人の間にできた子供は、法律的には死んだ者の子として、その家を継ぐ、と書いてあります。29ところで、七人兄弟がいたとします。長男は結婚しましたが、子供がないまま死んだので、30次男がその未亡人と結婚しました。ところが、彼も子供ができずに死にました。31こうして、兄弟が次々にこの未亡人と結婚したのですが、七人とも子供がないまま死にました。32最後に、未亡人も死にました。33そこでお尋ねしたいのですが……、この女は復活の時、いったいだれの妻になるのでしょうか。兄弟みなが彼女と結婚したのですが。」

3435「結婚とは、この地上に住む人たちのものです。死人の中から復活して、天国へ行く資格ありと認められた人たちは、結婚などしません。36二度と死ぬこともありません。この点では、御使いと変わりなく、また、死人の中から新しいいのちへと復活したので、神の子供なのです。」

3738しかし、あなたがたがほんとうに聞きたいのは、復活があるかないか、ということでしょう。モーセ自身は何と書き残していますか。燃えさかる柴の中に現われた神とお会いした時、モーセは神を、『アブラハムの神様、イサクの神様、ヤコブの神様』と呼びました。主が彼らの神と呼ばれている以上、彼らは生きているはずですよ。死んだのではありません。神の目から見れば、すべての人が生きているのです。」

39 その場に居合わせたユダヤの法律の専門家たちは、「先生。全く非の打ちどころのないお答えです」と言い、40あえてそれ以上、尋ねようとはしませんでした。

41すると今度は、反対にイエスが質問なさいました。「あなたがたはどうして、キリストをダビデの子だと言うのですか。4243ダビデ自身が、聖書（旧約）の詩篇の中でこう歌っています。

『神が私の主に言われた。

「わたしがあなたの敵を

あなたの足の下に置くまで、

わたしの右に座っていなさい。』

44キリストは、ダビデの子であると同時に神であるなどということがありうるのでしょうか。」

45 人々がイエスのことばに耳を傾けていると、イエスは弟子たちに言われました。

46 「ユダヤ教の学者たちを警戒しなさい。 彼らはぜいたくな着物をきて歩き回り、
通りで人々から、ていねいなあいさつを受けるのが何より好きです。 また会堂や宴会で、
特別席に着くのも大好きです。 47 うわべは、さも信心深そうに、長々と祈りますが、
その実、未亡人をだまして財産を奪い取ろう、とたくらんでいるのです。 こういう人々
には、神から、最もきびしい罰が下るのです。」

二一

1 さて、宮の中でのことです。 イエスは、金持ちたちが次々と献金箱にお金を投げ込
む様子を見ておられました。 2 そこへ貧しい身なりの未亡人がやって来て、十円玉を二
個そっと投げ入れました。

3 それを見たイエスは「実のところ、この女は、だれよりも多くささげたのです。 4
ほかの人たちはあり余る中からほんのわずかなだけささげたのに、この女は乏しい中から持
っている全部をささげたからです」と言われました。

世の終わり

5 弟子たちの何人かが、神殿のすばらしい石細工や壁の飾りなどに目を奪われ、感心し
ながら話し合っていました。

6 するとイエスは、彼らに言われました。 「今は賞賛の的になっているこれらのもの
が、一つの石もほかの石の上に残らないほど、完全に破壊され、全くの瓦礫の山と化する
日がもうすぐ来ます。」

7 「いつのことですか！ その前に、何か前兆があるのでしょうか。」驚いた弟子たちが、
思わず叫びました。

8 イエスはお答えになりました。 「だれにもだまされないようにしなさい。 『私が
キリストだ。 今こそ時が来た』と言いふらす者が大ぜい現われるからです。 そういう
人々を、絶対に信じてはいけません。 9 また、戦争や暴動が始まったという情報が乱れ
飛んでも、あわてふためかないようにしなさい。 戦争は必ず起こりますが、すぐに終わ
りが来るわけではありません。 10 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、 1
1 すさまじい地震が起こり、多くの国がききんに見舞われ、伝染病が流行し、恐ろしい異
変が天に現われます。

12 だが、このことが起こる前に、まず大迫害の時代が来るのです。あなたがたは、わ
たしを信じているばかりに、会堂や牢獄、また王や総督の前に、引立てられます。 1
3 その結果、かえってメシヤ（救い主）のことが広く知られ、あがめられるようになるの
です。 14 だから、人々の訴えにどう釈明しようかと心配してはいけません。 15 答
えることは、わたしが教えてあげます。 どんな反対者も反論できない、すばらしい答え
です。 16 一番身近な人、たとえば両親、兄弟、親類、また友人などがあなたがたを裏
切り、逮捕に役買うようになるでしょう。 中には殺される者も出ます。 17 わたし
の弟子だということで、あらゆる人があなたがたを憎むようになるでしょう。 18 だが、

あなたがたの髪の毛一本さえ、なくなることはありません。 19 忍耐強く忍び通せば、いのちを自分のものにできるのです。

20 エルサレムが軍隊に包囲されるのを見たら、滅びの時が来たと思いなさい。 21 ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。 エルサレムにいる人たちは市外へ逃げなさい。地方の人たちは都に逃げ込んではいけません。 22 神のさばきの日だからです。 預言者が書いた聖書（旧約）のことばどおりのことが起こるのです。 23 その日、妊娠している女と乳飲み子をかかえた母親は、ほんとうに気の毒です。 この国に大きな苦難がふりかかり、神の怒りが下るからです。 24 人々は敵の手にかかってむごい殺され方をするでしょう。 また捕虜となって多くの国々に連れ去られたり、追放されたりする人もいます。 エルサレムは占領され、神の恵みの時が来て、外国人の勝利の期間が終わるまで、外国人に踏みにじられるのです。

25 それから、天に不思議な現象が起こります。 太陽と月と星には不吉な前兆が現われ、地上では荒れ狂う海と高潮のために、諸国民はおじ惑い、大騒ぎとなります。 26 人々は、何か、とてつもなく恐ろしいことが起こるのではないかという不安にかられ、意気阻喪します。不動と信じられていた天そのものが揺れ動くのですから、むりもありません。 27 その時、地上にいる人々は、メシヤのわたしが、雲に乗り、力と輝かしい栄光を帯びてやって来るのを見るでしょう。 28 いま言ったようなことが起こり始めたら、しっかりと立ち、天を見上げなさい。 救いの時が近づいているのです。」

29 このあとイエスは、人々にたとえ話をなさいました。

「いちじくの木やほかの木に注意しなさい。 30 葉が出てくれば、ああ、もうすぐ夏だなど思うでしょう。 31 同じように、こうした現象が起こるのを見たら、神の国はもうそこまで来ていると考えなさい。

32 はっきり言いましょう。 このことが全部起こってから、世の終わりが来るのです。

33 天と地とは消えてなくなります。 けれどもわたしのことばは、永遠に真実なものとして残るのです。

34 35 気をつけなさい。 わたしは不意に来ます。 その時になって、あわてふためかないようにしなさい。 どんちゃん騒ぎをしたり、酒におぼれたり、ほかの人々のようにこの世の心配事のために駆けずり回ったりしている姿を、見られないようにしなさい。 36 少しでも油断してはいけません。 できることなら、こんな恐ろしい目を見ずに、わたしの前へ出られるように、熱心に祈りなさい。」

37 38 イエスは毎日、宮で教えておられました。 人々は朝早くから、話を聞こうと詰めかけます。 こうして夜になると、オリーブ山に戻られるのが常でした。

二二

イエスを殺す陰謀

1 イースト菌を入れないパンを食べる、ユダヤ人の過越の祭りが近づきました。 2 祭司長や他の宗教的指導者たちは、何とかイエスを殺そうと、あれこれ陰謀を巡らしていま

した。 群衆の暴動を引き起こさずにイエスを葬り去るうまい方法がないものかと、やっきになっていたのです。

3 さて、十二人の弟子の一人イスカリオテのユダの心に、サタンが忍び込みました。 4 ユダはわざわざ祭司長や神殿の警備隊長たちのところへ出かけ、イエスを売り渡す一番よい方法を相談しました。 5 この協力に彼らは大喜びでした。 ほうびをやる約束までしたほどです。 6 それでユダは、群衆が回りにいない時にひそかにイエスを逮捕しようと、チャンスをうかがい始めました。

7 さて、過越の小羊を殺し、イースト菌を入れないパンといっしょに食べる、過越の日になりました。 8 イエスはペテロとヨハネを先にやり、過越の食事をする場所を捜さしました。

9 「どこへ行けば、よろしいでしょう。」

10 「エルサレムに入るとすぐ、水がめを運んでいる男に出会うから、あとについて行きなさい。 11 彼が入った家の主人に、『私どもの先生が、弟子たちといっしょに過越の食事のできる客間を見せていただきたい、と申しておりますが』と言いなさい。 12 主人は、用意万端ととのった、二階の広間を見せてくれるでしょう。 そこで食事の用意をしなさい。 さあ、急いで。」

13 二人が町に行ってみると、何もかも言われたとおりです。 こうして、食事の準備はできあがりしました。

最後の晩餐

14 やがて時間になり、一同は、その広間で、そろって食卓に着きました。 15 まず口を切ったのは、イエスです。 「苦しみの始まる前に、ぜひ、いっしょに過越の食事をしたいと思っていました。 16 今だから言いますが、神の国で過越が実現するまで、わたしは二度と過越の食事をしません。」

17 それから、ぶどう酒の杯を取り、感謝の祈りをささげてから、こう言われました。「これを分け合いなさい。 18 わたしは神の国が来るまで、二度とぶどう酒は飲みません。」

19 次にパンを取り、神に感謝してから、それをちぎり、弟子たち一人一人に分け与えながら言われました。 「これはあなたがたに与える私の体です。 わたしの記念に、食べなさい。」

20 食事のあと、杯を弟子たちに渡して言われました。 「このぶどう酒は、神があなたがたを救ってくださるという新しい契約を保証するものです。 つまり、あなたがたのたましいを買い戻すために、わたしが流す血の代わりなのです。 21 それなのに、この食事にいっしょに座っている一人が、わたしを裏切るのです。 22 わたしは死ななければなりません。 それが神のご計画なのです。 だが、裏切り者には、どんな恐ろしいのろいが待ち受けていることでしょうか……。」

23 弟子たちは、そんなことをするのは、いったいだれだろう、といぶかりました。

24 それが一段落すると、やがて実現する御国で、だれが一番偉いかということで、あ
あでもない、こうでもない議論を始めました。

25 イエスは、この有様をご覧になって言われました。「この世では、王や高官たち
が、支配者として権力をほしいままにしています。 26 だが、あなたがたの間では違
います。一番よく人に仕える人こそ、指導者になるのです。 27 この世では、主人が食
卓に着き、召使に給仕をさせます。 だが、あなたがたの間では、それではいけません。
このわたしが給仕してあげるのですから。 28 だがあなたがたは、わたしにふりかかっ
た、さまざまの試練の時に、よくいっしょに耐え抜いてくれました。 29 だから、父が、
わたしに御国をお任せくださったように、わたしも、あなたがたにすばらしい特権をあげ
ましょう。 30 御国で、わたしの食卓に着き、共に食事をする特権、また王座に座って、
イスラエルの十二の部族をさばく特権です。

31 シモン、シモン。 いいですか。 サタンがあなたがたを麦のように、ふるいにか
けることを願い出ました。 32 だが、安心なさい。 あなたの信仰が全くだめになら
ないように、祈ってあげました。 だから、悔い改めて立ち直った時には、仲間の者たち
もしっかり立てるように、力づけてやりなさい。」

33 するとシモンは、とんでもないといった顔で、きっぱりと言いきりました。「主
よ、何をおっしゃるのです！ 私は牢獄までもついてまいります。 ごいっしょに死ぬ覚
悟もできております。」

34 「ペテロよ。 残念ですが、はっきり言います。 明日の朝、鶏が鳴くまでに、あ
なたは三度、わたしを知らないと言いはるでしょう。」

35 それから、弟子たちにお尋ねになりました。「前に、神のすばらしい知らせを伝
えようと、あなたがたを派遣した時、わずかの金も、旅行袋も、着替えも持たせませんで
した。 その時、旅先で何か不自由しましたか。」

「いいえ、ちつとも。」

36 「だが今は、手持ちの物があれば、旅行袋も財布も持っていきなさい。 剣がなか
ったら、着物を売り払ってでも手に入れなさい。 37 『彼は罪人の一人に数えられた』
という預言どおりのことが、わたしに起こるからです。 そうです。 預言者がわたしに
ついて預言したことは、何もかも、そのとおりになるのです。」

38 「先生。 剣なら二振りありますが。」

「そうですか、それで十分です。」

逮捕されたイエス

39 それから、イエスは弟子たちと連れ立って部屋を出、いつものようにオリーブ山に
行かれました。 40 「誘惑に負けないように、神に祈りなさい。」

41 42 こう言い残すと、イエスは、石を投げれば届くあたりまで歩いて行き、ひざまず
いて祈り始められました。「父よ。許していただけるなら、どうぞこの恐ろしい杯を取
り除いてください。 ですが……、わたしの思いどおりにではなく、あなたのお心のまま

になさってください。」 43 この時、天から御使いが現われ、イエスを力づけました。 44 イエスは苦しみもだえながら、いよいよ力を込めて祈られます。 大粒の汗が、まるで血のしずくのように、したたり落ちました。 45 ようやく立ち上がり、弟子たちのところに帰って来ると、どうでしょう。 弟子たちは、悲しみのあまり、疲れ果てて眠り込んでいます。

46 「どうして眠っているのですか。 さあ、起きなさい。 誘惑に負けないように、祈りなさい。」

47 こう言い終わらないうちに、十二弟子の一人ユダに先導されて、大ぜいの暴徒が押し寄せました。 ユダはイエスに駆け寄り、さも親しげに頬にくちづけのあいさつをしました。

48 しかしイエスは、あわれむように、「ユダよ。 あなたは、くちづけでメシヤ（救い主）を裏切るのですか」と言われました。

49 この事態の急変に取り乱した弟子たちは、「戦いましょう、先生。やつらをたたき切ってやりましょう！」と騒ぎだしました。 50 そして一人が、大祭司の家来に襲いかかり、右の耳を切り落としました。

51 「やめなさい。 それ以上手向かってはいけません。」イエスはこう命じてから、その家来の傷口にさわって、治されました。 52 次に、暴徒どもの先頭にいた祭司長、神殿の警備隊長、ユダヤ人の指導者たちに向かって言われました。「剣やこん棒とは。 こんなものものしい武装をしなければならないほど、わたしは凶悪犯なのですか。 53 なぜ神殿で捕らえなかったのですか。 毎日あそこにいたのに。 しかし、今はあなたがたの時、サタンが勝ち誇る時なのです。」

ペテロの大失敗

54 人々はイエスを捕らえ、大祭司の家に引っ立てました。 遠くから、ペテロが、恐る恐るあとをつけて行きました。 55 家の中庭では、兵士たちがたき火を囲んで暖まっています。 ペテロもその中にまぎれて座り込んでいました。

56 そのうち、一人の女中が火のあかりでペテロに気づき、「この人、イエスといっしょだったわ！」と叫びました。

57 「と、とんでもない！ そんなやつは知らんよ！」ペテロはあわてて打ち消しました。

58 しばらくすると、ほかの男が「いいや、おまえはやつらの仲間には違いない」と言い寄りました。「違う、違う。 絶対そんなことはない！」ペテロはまた否定しました。

59 一時間ほどたったのでしょうか。 また別の男が、「おまえは確かにイエスの弟子だ。 その証拠に、二人ともガリラヤ人じゃないか」ときめつけました。

60 ペテロは夢中で否定しました。「何のことだい！ さっぱりわからないぜ。」こう言うか言わないかのうちに、鶏の鳴き声が聞こえました。

61 その瞬間、イエスはふり向き、ペテロを見つめられました。 ペテロは、はっと我

に返りました。「あすの朝、鶏が鳴くまでに三度、わたしを知らないと言うだろう」というイエスのことばを思い出したのです。 62 ペテロは外へ走り出て、激しく泣きくずれました。

6364 さて、見張りの警備員たちは、イエスをからかい始めました。目隠しをしては、こぶしでなぐり、「おい、今なぐったのはだれだ。さあ当ててみろよ、預言者様やーい」とはやし立てるなど、 65 ありとあらゆる侮辱を加えました。

66 翌朝、夜がしらじらと明けそめるころ、ユダヤの最高議会が開かれました。祭司長をはじめ、国中の指導者たちがみな勢ぞろいしています。そこへ、イエスは引き出されました。 6768 尋問が始まりました。「ほんとうに、おまえはメシヤ（救い主）か。はっきりしろ。」

「そうだと言ったところで、信じる気はもうとうないでしょう。釈明させるつもりも。 69 しかし、栄光のメシヤであるわたしが、全能の神の右の座につく時は、もうすぐです。」 70 議場は騒然、尋問する声も荒立ってきました。「なにーっ！ あくまで神の子だと言いはるつもりかっ！」

「そのとおりです。」イエスはお答えになりました。

71 「これだけ聞けば十分だっ！ こいつの口から確かに聞いたぞ。」議員たちは叫びました。

二三

イエス、死刑の判決を受ける

1 衆議一決。全議員がうちそろって、イエスを総督ピラトのもとに引っ立てて行きました。 2 そして、口々に訴えました。「こやつは、ローマ政府に税金を納めるなどか、自分こそメシヤ（救い主）だの、王だのとぬかし、国民を惑わした不届き者でございます。」

3 ピラトはイエスに問いました。「ほんとうに、おまえはユダヤ人のメシヤであり、王なのか。」

「そのとおりです。」

4 ピラトは祭司長や群衆のほうを向き、「この男には罪はないではないか」と言いました。

5 これを聞いて、人々は狂ったように叫びました。「とんでもございませぬ！ こやつはガリラヤからエルサレムまで、ユダヤ全国、至る所で民衆をたきつけ、暴動を起こそうとしたんですよっ！」

6 そこでピラトは、「では、この男はガリラヤ人なのか」と尋ね、 7 人々がそうだと答えると、イエスをヘロデ王のもとへ連行するように命じました。ガリラヤはヘロデの支配下にあり、その時ヘロデは、ちょうどエルサレムに滞在中だったからです。 8 イエスに会えて、ヘロデは大喜びでした。前々からイエスのうわさを耳にし、ぜひ一度、奇蹟を見たいものだと思っていたのです。

9 ヘロデはイエスを前にして、次から次へと質問をあげました。ところがイエスは、きつと口をつぐみ、何一つお答えになりません。 10 祭司長や他の宗教的指導者たちも、

そばに立ち、激しい口調で訴えました。

11 ヘロデと部下の兵士どもは、さんざんイエスをばかにし、あざけたあげく、王が着るようなガウンを着せて、ピラトのもとに送り返しました。12 それまで敵対していたヘロデとピラトが、どういう訳か、たいそう親しくなったのは、この日からです。

13 ピラトは、祭司長とユダヤ人の指導者たち、それに民衆もみないっしょに呼び出し、14 判決を言い渡しました。

「おまえたちは、この男を、ローマ政府への反乱を指導したかどで訴えた。それで、くわしく調べてみたが、そのような容疑事実はない。この男は無罪だ。15 ヘロデも同じ結論に達し、私のもとに送り返してきた。この男は死刑にあたるようなことは何もしていない。16 だから、先端に鉛のついたむちで打ってから釈放しようと思う。」

17 18 しかし、人々はいっせいにわめき立てました。「そいつを殺せっ！バラバを釈放しろっ！」19 バラバとは、エルサレムで、政府転覆を図った罪と殺人罪とで、投獄されていた男でした。20 ピラトは、なんとかしてイエスを釈放しようと、なおも、群衆を説得しようとしたが、21 彼らは聞き入れません。「十字架だっ！十字架につけろっ！」と叫び続けるばかりです。

22 ピラトは、三度目に念を押しました。「どうしてだっ！この男がどんな悪事を働いたというのか。死刑を宣告する理由など見つからん。だから、むち打ってから釈放してやるつもりだ。」23 それでも、騒ぎはおさまりません。ますます大声で、イエスを殺せとわめき立てる群衆の声に、ついに、ピラトも負けてしまいました。

24 しかたがありません。要求どおり、イエスに死刑を宣告し、25 反逆罪と殺人罪で投獄されていたバラバを釈放しました。イエスのほうは、すぐに人々の手に渡し、好きなようにさせました。

26 イエスを刑場に引いて行く途中、田舎からエルサレムに着いたばかりの、シモンというクレネ人に会いました。全く好都合です。むりやり十字架を背負わせ、イエスのうしろから運ばせました。27 大ぜいの群衆や、悲しみに打ちひしがれた婦人たちが、あとから、ぞろぞろついて行きます。

28 イエスは婦人たちのほうをふり向き、とぎれとぎれに言われました。「エルサレムの娘たちよ……。わたしのために泣いてはならない。自分と、子供たちのために、泣きなさい……。29 いいですか……。子供のできない女のほうが、しあわせだ、と思われる日が、すぐにでも、来るのです。30 その時、人々は……。山に向かって、『私たちの上に倒れて、押しつぶしてくれっ！』と叫び、丘に向かって……。『私たちを埋めてくれっ！』と必死で、頼むでしょう……。31 生木のわたしでさえ、こんな目に会ったら……。あなたがたのような……。枯れ木同然の人たちには、いったい……。どんなことが……起こるでしょう。」

イエスの十字架の死と埋葬

32 33 イエスだけでなく、ほかにも二人の犯罪者が、「がいこつ」と呼ばれる場所で処刑

されるために、引き立てられました。刑場に着くと、いよいよ十字架刑です。イエスは真ん中に、二人はその両側に……。

34 その時、イエスはこう言われました。「父よ。この人々をお赦してください。自分たちが何をしているかわかっていないのです。」

兵士たちがさいころを投げて、イエスの着物を分け合うのを、35 群衆はそばで、おもしろそうにながめています。一方、ユダヤ人の指導者たちは、得意げにイエスをあざけりました。「たいしたお人好しよ。他人ばかり助けてやってよ。このざまは何だ。ほんとうに神様に選ばれたメシヤ（救い主）なら、自分を救ってみろ！」

36 兵士たちも、酸っぱいぶどう酒を差し出しながら、皮肉たっぷりに、37「よおよお、ユダヤ人の王様っ！ご自分を救ったらどうだい！」とからかいました。

38 十字架のイエスの頭上には、「これはユダヤ人の王」と書いた罪状書きが、掲げてありました。

39 イエスの横で十字架につけられていた犯罪人の一人までが、「あんたメシヤ様なんだってなあ。だったらよお、自分とおれたちを救ってもよさそうなもんだぜ。ええっ、どうなんだいっ！」とののしりました。

40 41 しかしもう一人は、それをたしなめました。「この期に及んで、まだ神様を恐れないのかっ！おれたちやあ悪事を働いたんだから、殺されて当然さ。だがよ、このお方はどうだ。悪いことなんぞ、これっぽっちもしちゃおられないんだぜ。」42そして、イエスにこう頼みました。「イエス様。御国に入られる時、どうぞ、私を思い出してください。」

43 イエスはお答えになりました。「あなたは今日、わたしといっしょにパラダイスに入ります。約束します。」

44 その時です。正午だというのに、突然、あたりが暗くなり、午後三時まで、そんな状態が続きました。45 太陽は光を失い、神殿の幕が、なんと真つ二つに裂けたのです。

46 その時イエスは、大声で、「父よ。わたしの霊をおゆだねします！」と叫ばれたかと思うと、息を引き取られました。

47 刑を執行していたローマ軍の隊長は、不思議な出来事を見て、神への恐れに打たれ、「確かに、この人には罪がなかった」と叫びました。

48 また、十字架を見物に来ていた大ぜいの人も、この、イエスの最期の有様を見ると、みな深い悲しみに沈んで、すごすご家へ帰って行きました。49 一方、ガリラヤからイエスに従って来た婦人たちやイエスの友人たちは、遠くから、じっとこの様子を見守っていました。

50 - 52 そのころ、ユダヤの最高会議の議員で、アリマタヤ出身のヨセフという人が、ピラトのもとに行き、イエスの遺体を引き取りたいと願い出ました。彼はメシヤが来るのをひたすら待ち望んでいた神を敬う人物で、他の議員たちの決議や行動には、全然同意

していませんでした。 53 ヨセフは遺体を十字架から降ろし、長い亜麻布に包んで、岩をくり抜いた、新しい、まだだれも葬ったことのない墓に納めました。 54 これは、安息日の準備の日にあたる金曜日の、午後遅いころのことでした。

55 遺体が十字架から降ろされた時、ガリラヤから従って来た婦人たちは、ヨセフのあとについて行き、イエスが墓に納められるのを見届けました。 56 それから家に戻り、急いで、遺体に塗る香料と香油とを用意しましたが、すぐに安息日になったので、ユダヤのおきてに従って休みました。

二四

イエスは復活した！

1 日曜日の明け方早く、待ちかねた婦人たちは香油を持って墓に急ぎました。 2 着いてみると、どうしたことでしょう。 入口をふさいであった大きな石が、わきへ転がしてあるではありませんか。 3 中へ入って見ると、主イエスの体は影も形もありません。

4 「いったい、どうなってるのかしら。」きつねにでもつままれたような気持ちです。すると突然、まばゆいばかりに輝く衣をまとった人が二人、目の前に現われました。 5 女たちは、もう恐ろしくて恐ろしくて、顔も上げられません。 地に伏したまま、わなわな震えていました。 その時、二人が声をかけました。 「なぜ生きておられる方を、墓の中で捜しているのです。 6 7 あの方はここにはおられません。 復活なさったのです。まだガリラヤにおられたころ、何と言われましたか。 メシヤ（救い主）は悪い者たちの手に売り渡され、十字架につけられ、それから三日目に復活する、と宣言なさったではありませんか……。」

8 そう言われて女たちは、はっと思いあたりました。 9 すぐさまエルサレムに取って返し、一部始終を、十一人の弟子やほかの人たちに話しました。 10 そのとき墓へ行った婦人たちは、マグダラのマリヤとヨハンナ、ヤコブの母マリヤ、そのほか数人でした。

11 ところが、男たちには、この話がまるで物語のようで、とても現実のこととは思えません。 だれも、まともに信じようとしませんでした。

12 しかしペテロは、それでも一応は確認しなければ、と墓へ駆けつけ、身をかがめて中をのぞき込みました。 するとどうでしょう。 亜麻布のほかには、何も見あたりません。 この出来事に驚いて、家に戻って行きました。

13 この同じ日曜日のことです。 二人の弟子が、エルサレムから十一キロほど離れたエマオという村へ急いでいました。 14 二人が道々話し合っていたことは、イエスの死のことでした。 15 そこへ突然、当のイエスが近づき、彼らと連れ立って歩き始めました。 16 しかし二人には、イエスだとはわかりません。 神がそうなさったのです。

17 イエスがお尋ねになりました。 「何やら熱心にお話しのようですね。 いったい何が、そんなに問題なのですか。」すると二人は、急に顔をくもらせ、思わず足を止めました。

18 クレオパというほうの弟子が、あきれたように、「エルサレムにしながら、先週起こ

った、あんな恐ろしい出来事を知らないなんて……、そんな人は、あなたぐらいのものでしょう」と言いました。

19 「そうですか。 で、どんなことでしょうか？」

「ナザレ出身のイエス様のことをご存じないのですか。 この方は、信じられないような奇蹟を幾つもなさった預言者で、素晴らしい教師でもあられたんですよ。 そんなわけで、神様からも人からも、重んじられていたんですが、 20 祭司長や他の宗教的指導者たちは、理不尽にもこの方をつかまえて、ローマ政府に引き渡し、なんと、十字架につけてしまったんですよ。 21 - 23 私たちは、この方こそ栄光に輝くメシヤで、イスラエルを救うために来られたに違いない、とまあ、こんなふうを考えていたんですがね……。 ところが、話はそれで終わらないんですよ。 弟子仲間の婦人たちが、なんとも奇妙なことを言いだしたんです。 その処刑があった日から、今日で三日目になるんですがね、今朝がた早く、その婦人たちが墓へ行ったところ、イエス様のお体は影も形もないと言うじゃありませんか。 しかもその場に御使いが現われて、イエス様は生きておられると語ったとか何とか……。 24 その話を聞いて、仲間のある者たちが墓へ駆けつけて確認したんですがね、彼らも口をそろえて、墓は空っぽだったと証言してるんですよ。」

25 「ああ、どうしてそんなに、ものわかりが悪いのですか。 預言者たちが聖書（旧約）に書いていることを信じられないのですか。 26 キリストは、栄光の時を迎える前に、必ずこのような苦しみを受けるはずだと、預言者たちは、はっきり予告したではありませんか。」

27 それからイエスは、創世記から始めて、聖書（旧約）全体にわたって次から次へと預言者のことばを引用しては、救い主についての教えを説き明かしました。

28 そうこうするうち、そろそろエマオに近づきましたが、イエスは、まだ旅を続ける様子です。 29 二人は、じきに暗くなるから、今晚はここで、いっしょに泊まってくださいと熱心に頼みました。 それで、イエスもいっしょに家に入りました。 30 一同が食卓に着くと、イエスはパンを取り、神に祝福を祈り求め、ちぎって、二人に渡しました。

31 その瞬間、二人の目が開かれ、その人がイエスだとわかりました。と同時に、イエスの姿はかき消すように見えなくなりました。

32 二人はあつけにとられながらも、「そう言えば、あの方が歩きながら語りかけてくださった時も、聖書のことばを説明してくださった時も、不思議なほど心が燃えたなあ」と言い合いました。 33 34 そして、すぐエルサレムへ取って返しました。 戻ってみると、十一人の弟子たちやほかの弟子たちが迎え、「主は、ほんとうに復活されたんだよ。 ペテロがお会いしたんだからまちがいない」と話すではありませんか。

35 そこで二人も、エマオへ行く途中イエスと出会ったことや、パンをちぎられた時に、はっきりイエスだとわかったことなどを事細かに話しました。 36 ところが、この話の最中に、突然イエスが現われ、みんなの真ん中に立って、あいさつされました。 37 それなのに、だれもかれも幽霊を見ているのだと勘違いし、ぶるぶる震えています。

38 「なぜそんなに驚くのですか。 どうしてそんなに疑うのですか。 39 さあ、この手を、この足を、よくごらんください。 わたしにまちがいないでしょう。 さあ、さわってみなさい。 これでも幽霊でしょうか。 幽霊だったら、体などないはずですよ。」 40 イエスはこう言いながら、手を差し出して釘の跡をお見せになり、また足の傷もお示しになりました。

41 弟子たちは、うれしいにはうれしいのですが、まだ半信半疑です。心を決めかねて、ぼう然と突っ立っていました。 それでイエスは、「何か食べ物がありますか」とお尋ねになりました。

42 焼き魚を一切れ差し上げると、 43 イエスはみんなのしている前で召し上がりました。

44 「以前、いっしょにいた時、モーセや預言者の書いたこと、それに聖書（旧約）の詩篇にあることはみな、必ずそのとおりになると話して聞かせたはずですよ。 忘れてしまったのですか。」 45 イエスが弟子たちの心の目を開かれたので、彼らにも、やっと納得がいきました。 46 イエスは、さらに先をお続けになりました。 「そうです。メシヤが苦しめられ、殺され、そして三日目に復活することは、ずっと昔から記されていたのです。 47 わたしのもとに立ち返る人は、だれでも罪が赦されます。 この救いの知らせは、エルサレムから始まり、世界中に伝えられるのです。 48 あなたがたはこのことの証人です。 初めから何もかも見てきたのですから。

49 父が約束してくださった聖霊を送ります。 しかし、聖霊がおいでになり、天からの力で満たしてくださるまでは、だれにも話してはいけません。 この都にとどまっています。」

50 それからイエスは、一同をベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福してから、 51 天に帰って行かれました。 52 人々は、イエスを礼拝すると、喜びに胸を躍らせて、エルサレムに戻り、 53 いつも宮にいて、神を賛美していました。

■